

**HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査
報告書**

(平成 28 年度)

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策政策研究事業

男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

研究代表者

市川 誠一 (人間環境大学)

研究分担者

今井 光信 (田園調布学園大学)

HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査（H28 年度） 2.23 改

研究分担者	今井光信	（田園調布学園大学）
研究協力者	近藤真規子	（神奈川県衛生研究所微生物部）
	佐野貴子	（神奈川県衛生研究所微生物部）
	大野理恵	（神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班）
	須藤弘二	（慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室）
	加藤真吾	（慶應義塾大学医学部微生物部・免疫学教室）
	市川誠一	（人間環境大学）

研究概要

HIV 感染者の対策を考える上でも、また HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査・相談に関するアンケート調査を実施した。

なお、今回は梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。アンケートは平成 28 年 1 月～12 月までの 1 年間のデータを解析するため、平成 29 年 1 月に実施し解析を行った。

今回の全国保健所アンケート調査(HIV)においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 563 箇所（保健所及びその支所等）中、469 施設（83%）から回答を得ることができた。アンケート結果では、平成 28 年の 1 年間に、HIV 検査相談事業を行っているという回答の得られた 467 施設で合計 75,584 件の HIV 検査が実施され、221 件（0.29%）が陽性であった。陽性であった 221 件中、209 件（95%）が陽性結果を受け取っており、その中の 162 件（78%）については、その後医療機関を受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 28 年に陽性と分かった 221 件中の 121 件（55%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

また、東京都南新宿 HIV 検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、21 か所中 17 か所（81%）から回答があり、それらの検査相談機関において、22,183 件の検査が行われ、139 件（0.63%）が陽性であった。陽性であった 139 件中 130 件（94%）において、結果が伝えられ、そのうち、104 件（80%）については受診したことが把握されていた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 139 件中 120 件（86%）について自施設から報告が行われていた。

以上のことから、H28 年の保健所等と特設の HIV 無料検査においては、合計で 360 件の陽性件中 339 件において陽性の結果が伝えられ、その中の 266 件において医療機関への受診が確認されていることが分かった。現在、郵送検査等での HIV 受検者の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についても検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設（31%）、即日検査のみが 213 施設（46%）、通常検査と即日検査が 110 施設 24%で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設（49%）、

平日夜間検査が 174 施設 (37%)、土日検査が 66 施設 (14%) と、その比率も昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94%、特設検査相談施設の 94%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っている」と回答している。また、受検者について把握している内容については、性別、年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期、については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的志向に関しては特設検査相談施設の 94%が把握しているとの回答したのに対して、保健所で把握しているとの回答は 43%であった。また、これら把握内容を事業改善等に活用していると回答した保健所は 59%で、活用していないと回答した保健所が 33%であった。各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の核施設における課題である。

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設 (70%) で、特設検査相談施設では、17 施設中 6 施設 (35%) であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件 (74%)、予算の増額 54 件 (43%)、マニュアルの配布 31 件 (24%)、職員の増員 31 件 (24%)、医療機関の協力・連携 24 件 (19%) 等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設 (40%)、マニュアルの配布 2 施設 (20%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設 (30%)、医療機関の協力・連携 1 施設 (10%) 等の意見であった。

現在梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件 (84%) で、有料検査が 44 件 (14%) であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件 (34%)、有料検査が 47 件 (14%) であった。なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1000 円が 25 件、1500 円～2000 円が 40 件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS 法による検査を行っている保健所は 259 件 (79%) で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件 (1.4%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、290 件 (89%) で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件 (2.5%) であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 5,825 件、陽性は 369 件 (6.3%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、6 施設で、その検査数は 1,412 件で陽性は 356 件 (25%) であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが 206 件 (63%) で、結果説明のみが 77 件 (24%) であった。特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、本年度においては HIV 検査に関する報告は 0 件であったが、STI 検査に関して、梅毒検査で 1 件、クラミジア検査で 1 件、合計 2 件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという人為的ミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は二重チェックの徹底等、再発防止策の強化に努めているとのことであった。保健所等における HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名 (番号・記号) による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

A. 目的

HIV 感染者の対策を考える上でも、また HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

また、本年度は梅毒検査についても保健所等での実施状況を把握するため同時にアンケート調査を実施した。

B. 方法

全国の保健所およびその支所等 563 箇所の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 21 箇所の特設 HIV 検査相談施設とを対象に、平成 29 年 1 月 4 日に HIV 検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成 29 年 1 月 20 日を締め切り日として、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

C. 結果

1 保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 563 施設中 469 施設からアンケート結果が返送され、アンケートの回収率は 83%であった。また、特設検査相談機関については、対象とした 21 施設中 17 施設 (81%) からアンケート結果を回収できた。

① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった 469 保健所等施設の中で 467 施設とほとんどの施設が HIV 検査相談を実施していた。

② HIV 検査総数と陽性率

上記 467 保健所等施設で平成 28 年に行った HIV 検査相談の検査総数は 75,584 件で、陽性は 221 件 (0.29%) であった。

一方、回答のあった 17 特設検査相談機関で平成 28 年に行った HIV 検査相談の検査総数は

22,183 件で、陽性は 139 件 (0.63%) であった。

③ 年間検査件数別保健所数およびその陽性率

年間検査数が 50 件未満の保健所等施設が 186 件 (40%) で、そこでの検査数合計は 3,814 件と多くはないが、陽性件数が 9 件あり、その陽性率が 0.24%と全体の平均陽性率 0.29%と大差はなく、それぞれの地域で一定の役割を果たしていることがわかった。

一方、年間検査数 1000 件以上の保健所が 9 件 (1.9%) あり、そこでの検査数は 14,706 件、陽性件数が 59 件で、陽性率は 0.40%と全国平均 0.29%に比べかなり高い。これら保健所の検査施設のほとんどが東京、大阪、名古屋等の都市部にあり、感染リスクのより高い受検者の利用が多いためと思われる。

④ HIV 検査結果の受け取り状況

HIV の検査結果の受け取り状況に関しては、検査結果を受け取りに来なかった受検者数は、保健所等での全検査件 75,584 件中 1,825 件 (2.4%) であった。検査結果の陰性・陽性で比べると、陰性の場合 75,363 件中 1,813 件 (2.4%)、陽性の場合 221 件中 12 件 (5.4%) であった。また、即日検査と通常検査で比べると、結果を受け取りに来なかった受検者数 (率) は、即日検査では 1.1% (陰性) と 4.7% (陽性)、通常では 4.3% (陰性) と 7.3% (陽性) で、即日に比べ通常検査では陰性時・陽性時の双方において結果を受け取りに来ない受検者の率が高いことがわかった。

⑤ 陽性者の医療機関への受診についての把握について

陽性者が医療機関を受診したかどうか把握するための仕組みの有無については、陽性経験のある保健所等 (274 か所) では 83%があるとの回答であったが陽性経験のない保健所等 (180 か所) では 17%と低かった。

また、陽性結果を受け取った 209 人中、医

療機関を受診したことを把握できている受検者は162人(78%)であった。

特設検査でのHIV検査陽性の139件において、受検者が陽性の確認検査を受け取ったのは130件(94%)であった。この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は104例であり、陽性結果を伝えられた130件中の80%であった。⑥ HIVの確認検査陽性例の報告

HIVの確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、保健所では、平成28年に陽性と分かった221件中の121件(55%)については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

特設検査では、139件中の120件(86%)については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

⑦ HIV検査以外の性感染症検査について

HIV検査と同時に行っている性感染症検査に関しては415施設(89%)の保健所等で実施しており、その内訳は、梅毒検査319施設(77%)、B型肝炎308施設(74%)、C型肝炎301施設(73%)、クラミジア抗原146施設(35%)、クラミジア抗体111施設(28%)、淋菌50施設(12%)、であった。梅毒検査及びB型肝炎とC型肝炎のウイルス検査に関しては、70%を上回る施設で実施されていることが分かった。

特設検査相談機関では、8施設(47%)で性感染症検査を実施しており、その内訳は、梅毒検査6施設、B型肝炎6施設、淋菌2施設、C型肝炎1施設、クラミジア抗原1施設、クラミジア抗体0施設(0%)、であった。

⑧ 受検者について把握している内容

保健所では、性別と年齢・年代についてはほとんどの保健所が把握しており、受検動機については86%、感染機会の時期については82%、感染リスクについては73%、受検経験については72%の保健所が把握しているとの

回答であった。一方、居住地については45%の保健所で把握しているとの回答であり、性的指向については43%の保健所が把握しているとの回答であった。

また、これら把握した内容を事業改善等に活用していると回答した保健所が59%で33%の保健所では活用されていないとの回答であった。

特設検査相談では、性別と受検経験については全ての施設が把握しており、性的志向については16施設(94%)、感染リスクについては15施設(88%)、居住地域・受検動機・感染機会の時期・情報源については14施設(82%)の施設が把握しているとの回答であった。

⑨ 結果説明について

結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師が98%、保健師・看護師が86%、カウンセラー等が27%関わっているとの回答であった。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者も、医師が83%、保健師・看護師が88%、カウンセラー等が13%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師40%、保健師・看護師80%、カウンセラー等が14%との回答であった。

また、陽性者への対応として、カウンセラーの派遣が可能かとの質問には、経験ありが23%、実績はないが可能が22%、できないが41%の回答であった。

特設検査相談施設における結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師が91%、保健師・看護師が27%、カウンセラー等が54%関わっているとの回答であった。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者は、医師が92%、保健師・看護師が31%、カウンセラー等が54%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師60%、保健師・看護師35%、カウンセラー等が35%との回答であった。

また、陽性者への対応として、カウンセラ

一の派遣が可能かとの質問には、経験ありが 5 施設 (29%)、実績はないが可能が 5 施設 (29%)、できないが 3 施設 (18%) の回答であった。

⑩ 感染予防の行動変容への働きかけについて

感染予防の行動変容を働きかける相談については、保健所等においても、特設検査相談施設においても 94%とそのほとんどがおこなわれているとの回答であった。その対象に関しては、受検者全員にとの回答が 83% (保健所等) 63% (特設)、であり、その実施時期については、検査前が 15% (保健所) 19% (特設)、検査後の結果説明時が 25% (保健所等) 63% (特設)、両方で行うが 57% (保健所等) 38% (特設) であった。

⑪ 対応困難者の経験とその対応について

対応困難者の経験については、あるとの回答が、39% (保健所等) 71% (特設) あり、その際に紹介先があるかとの質問には、あるとの回答は 22% (保健所等) 18% (特設) と少なかった。紹介先としては、医療機関が 62% (保健所等)、NGO 等が 24% (保健所等) 100% (特設) であった。

⑫ 血液暴露事故が受検動機を受検者 (医療従事者) について

血液暴露事故が受検動機を受検者 (医療従事者) に関する質問では、経験ありとの回答が保健所では 139 件 (30%)、特設の検査相談施設では 8 施設 (47%) であった。その状況としては、保健所等では、針刺し事故 60 件、血液に触れたが 23 件、不安が 12 件であった。

⑬ 未成年の検査希望者への対応について

未成年の検査希望者への対応については、通常通り行うが 78% (保健所等) 59% (特設)、特別な配慮を行うが保健所等では 87 件 (19%)、特設検査相談施設では 6 施設 (35%) であった。保健所等の検査相談施設における特別な配慮の内容としては、陽性時には親にも説明が 29 件、保護者の同意について質問が 21 件、

丁寧なカウンセリングが 9 件、年齢により対応を考えるが 16 件であった。

特設検査相談施設における特別な配慮としては、陽性時には親にも説明が 1 件、本人との相談により判断が 3 件、結果により検討が 2 件であった。

⑭ 日本語のわからない外国籍の人の受検

日本語のわからない外国籍の人の受検できる仕組みがあるとの回答は 153 件 (33%) であり、その対応言語については、英語が 99 件、中国語 (46 件)、ポルトガル語 (40 件)、韓国語・朝鮮語 36 件、スペイン語 (37 件)、タイ語 19 件、タガログ語・フィリピン語 17 件、ベトナム語、7 件、ロシア語 3 件であった。

特設の検査相談施設においては、日本語のわからない外国籍の人の受検できる仕組みがあるとの回答は 8 件 (47%) であり、その対応言語については、英語が 5 施設、ポルトガル語が 1 施設であった。

⑮ ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の利用

ホームページ「HIV 検査相談マップ」を閲覧したことがあるとの回答が 438 件 (93%) で、ないとの回答は 24 件 (5%) であった。

また、ホームページ「HIV 検査相談マップ」が HIV 検査相談事業に役立っていると思うかとの質問には、はいの回答が 372 件 (80%)、いいえの回答は 1 件、不明が 88 件 (19%) であった。

なお、特設の検査相談施設においては、回答のあった 17 施設全てにおいて、ホームページ「HIV 検査相談マップ」を閲覧したことがあり、ホームページ「HIV 検査相談マップ」が HIV 検査相談事業に役立っていると思うとの回答であった。

⑯ HIV 検査結果の誤通知事故の有無について

平成 28 年にける誤通知例の有無に関しては、HIV 検査に関する報告は 0 件であったが、STI 検査に関して、梅毒検査で 1

件、クラミジア検査で1件、合計2件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は二重チェックの徹底等再発防止策の強化に努めているとのことであった。

保健所等における HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名（番号・記号）による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

2 保健所等における梅毒検査体制に関する調査

① アンケート調査の対象と回収率

保健所等 563 施設を対象にアンケート調査を行った結果、469 施設（83%）からの回答が得られた。また、特設の検査相談施設を対象に行った調査では 21 施設中 17 施設（81%）から回答を得られた。

② 梅毒検査の実施の有無と可能性について

回答のあった 327 件中、梅毒検査を現在実施しているとの回答は 327 件（70%）、実施の予定が 13 件（3%）、実施していないが 127 件（27%）であった。

実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件（74%）、予算の増額 54 件（43%）、マニュアルの配布 31 件（24%）、

職員の増員 31 件（24%）、医療機関の協力・連携 24 件（19%）等の意見であった。

特設の検査相談施設においては、梅毒検査を実施している施設が 6 施設（35%）、実施の予定が 1 施設、実施していないが 10 施設（59%）であった。

実施していない施設において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設（40%）、マニュアルの配布 2 施設（20%）、即日で信頼できる試薬が 3 施設（30%）、医療機関の協力・連携 1 施設（10%）等の意見であった。

③ 梅毒検査の実施形態

現在梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件（84.1%）で、有料検査が 44 件（14%）であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件（34%）、有料検査が 47 件（14%）であった。

なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1000 円が 25 件、1500 円～2000 円が 40 件であった。

特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

④ 梅毒検査の方法と検査数・陽性数・陽性率について

STS 法による検査を行っている保健所は 259 件（79%）で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件（1.4%）であった。

TP 抗体検査を実施しているとの回答は、290 件（89%）で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件（2.5%）であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 5,825 件、陽性は 369 件（6.3%）であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、6 施設で、その検査数は 1,412 件で陽性は 356

件（25%）であった。

- ⑤ 梅毒検査陽性時の対応について
医療機関を紹介するが 206 件（63%）で、結果説明のみが 77 件（24%）であった。
なお、梅毒検査の結果返しに関しては、即日が 64 件（20%）、2 日～1 週間が 179 件（55%）、1 週間～2 週間が 85 件（26%）であった。

特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。梅毒検査の結果返しに関しては、2 日から 1 週間が 3 施設、1 週間～2 週間が 1 施設であった。

- ⑥ 梅毒検査の頻度・時間帯等について
梅毒検査の頻度については、月 1 回以下が 57 件（21%）で月 2～3 回が 97 件 30%、月 4 回以上が 158 件（48%）であった。

また、予約については必要が 210 件（64%）、必要なしが 112 件（34%）であった。

D. まとめと考察

平保健所等における HIV 検査相談数は、平成 20 年をピークに、その後の平成 21 年、22 年に大きく減少し、その後はほぼ横ばい状態が続いているが、今回の保健所等アンケート調査においても、ほぼ同様な状況が続いていることが分かった。

今回の全国保健所アンケート調査（HIV）においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 563 箇所（保健所及びその支所等）中、469 施設（83%）から回答を得ることができた。アンケート結果では、平成 28 年の 1 年間に、HIV 検査相談事業を行っていると回答の得られた 467 施設で合計 75,584 件の HIV 検査が実施され、221 件（0.29%）が陽性であった。陽性であった 221 件中、209 件（95%）が陽性結果を受け取っており、その中の 162 件（78%）については、その後医療機関に受診していることが保健所等において確認されていること

が分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 28 年に陽性と分かった 221 件中の 121 件（55%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

また、東京都南新宿 HIV 検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、21 か所中 17 か所（81%）から回答があり、それらの検査相談機関において、22,183 件の検査が行われ、139 件（0.63%）が陽性であった。陽性であった 139 件中 130 件（94%）において、結果が伝えられ、そのうち、104 件（80%）については受診したことが把握されていた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 139 件中 120 件（86%）について自施設から報告が行われていた。

以上のことから、H28 年の保健所等と特設の HIV 無料検査においては、合計で 360 件の陽性件中 339 件において陽性の結果が伝えられ、その中の 266 件において医療機関への受診が確認されていることが分かった。現在、郵送検査等での HIV 受検者の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についても検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設（31%）、即日検査のみが 213 施設（46%）、通常検査と即日検査が 110 施設 24%で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設（49%）、平日夜間検査が 174 施設（37%）、土日検査が 66 施設（14%）と、その比率も

昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それに関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94%、特設検査相談施設の 94%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていると回答している。また、受検者について把握している内容については、性別、年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期、については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的志向に関しては特設検査相談施設の 94%が把握しているとの回答したのに対して、保健所で把握しているとの回答は 43%であった。また、これら把握内容を事業改善等に活用していると回答した保健所は 59%で、活用していないと回答した保健所が 33%であった。

各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の核施設における課題である。

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設 (70%) で、特設検査相談施設では、17 施設中 6 施設 (35%) であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件 (74%)、予算の増額 54 件 (43%)、マニュアルの配布 31 件 (24%)、職員の増員 31 件 (24%)、医療機関の協力・連携 24 件 (19%) 等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設 (40%)、マニュアルの配布

2 施設 (20%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設 (30%)、医療機関の協力・連携 1 施設 (10%) 等の意見であった。

現在梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件 (84.1%) で、有料検査が 44 件 (14%) であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件 (34%)、有料検査が 47 件 (14%) であった。なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1000 円が 25 件、1500 円～2000 円が 40 件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS 法による検査を行っている保健所は 259 件 (79%) で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件 (1.4%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、290 件 (89%) で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件 (2.5%) であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 5,825 件、陽性は 369 件 (6.3%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、6 施設で、その検査数は 1,412 件で陽性は 356 件 (25%) であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが 206 件 (63%) で、結果説明のみが 77 件 (24%) であった。特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、本年度においては HIV 検査に関する報告は 0 件であったが、STI 検査に関して、梅毒検査で 1 件、クラミジア検査で 1 件、合計 2 件の誤通知事例があった。

梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るといふ二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は再発防止策の強化に努めているとのことであった。

保健所等における HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名（番号・記号）による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

今回の例からも、誤通知事例はどの施設でも起こりうることを共通認識として共有し、衛生研究所や民間検査機関においても、また、保健所等、検査相談機関、においても、誤通知等の発生防止に向けて継続した努力と注意喚起が今後とも必要である。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所および特設 HIV 検査相談関係者の皆様方に深く感謝致します。

E. 発表論文等

1 論文

なし

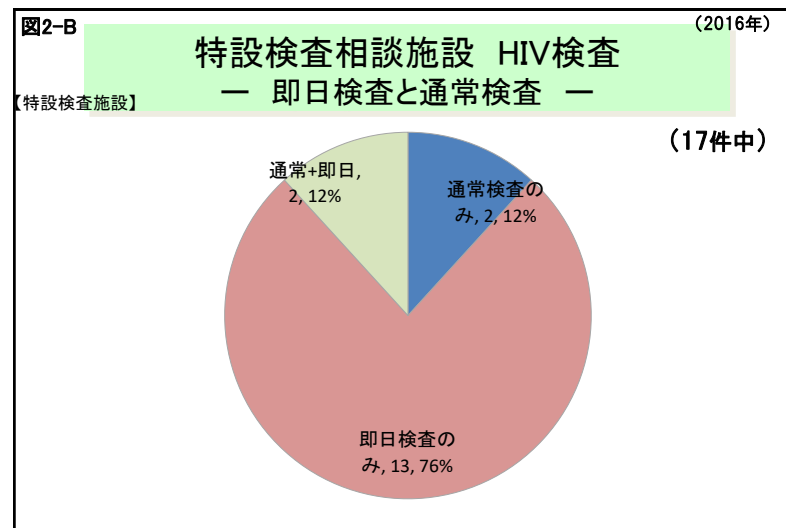
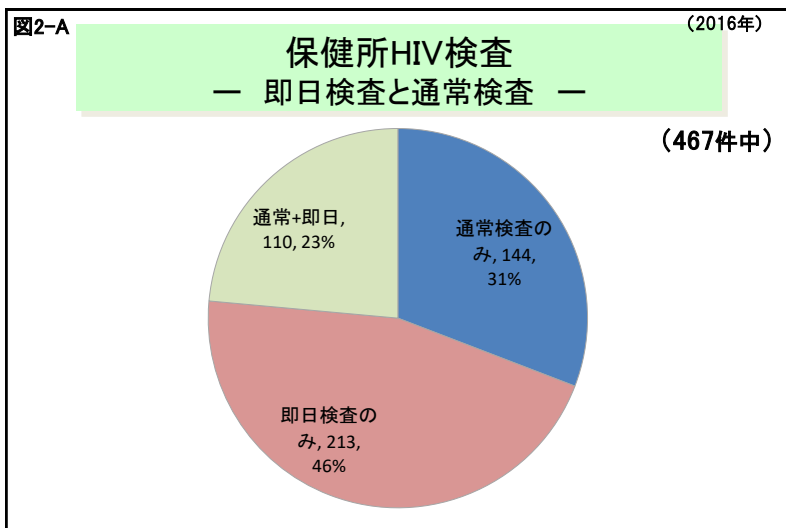
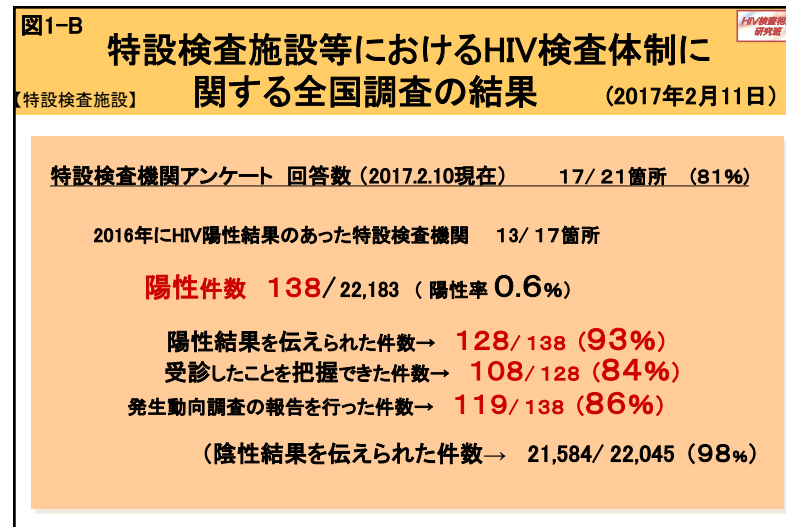
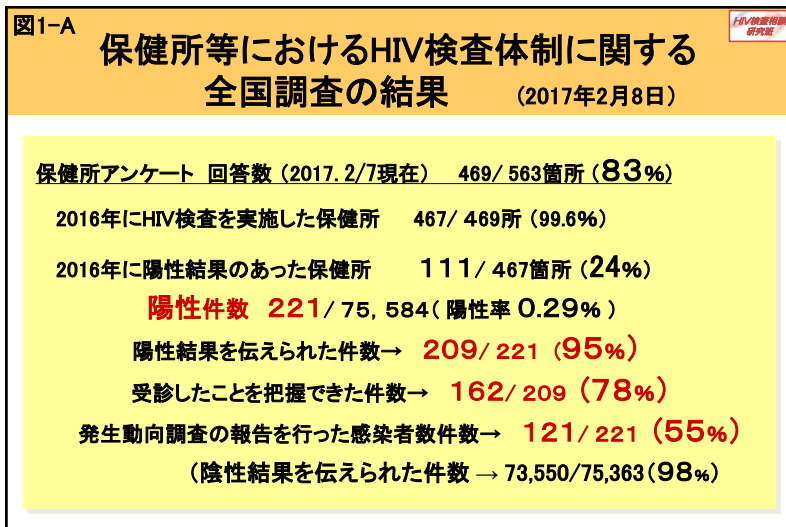
2 学会発表（国内）

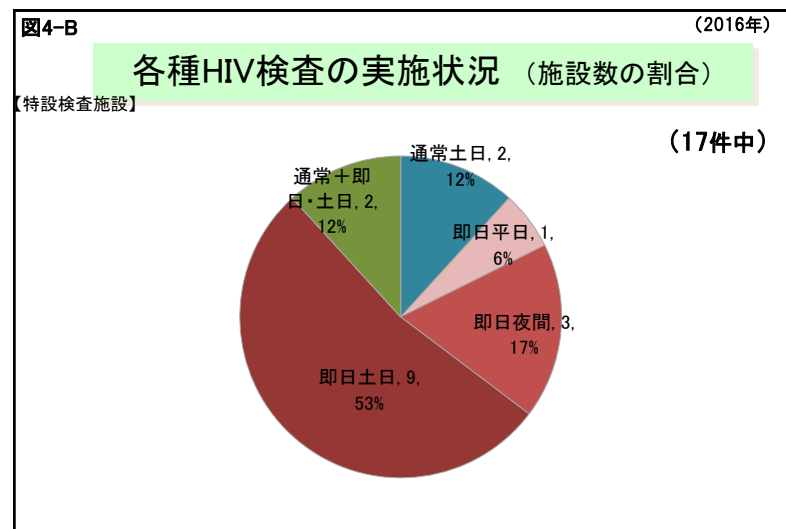
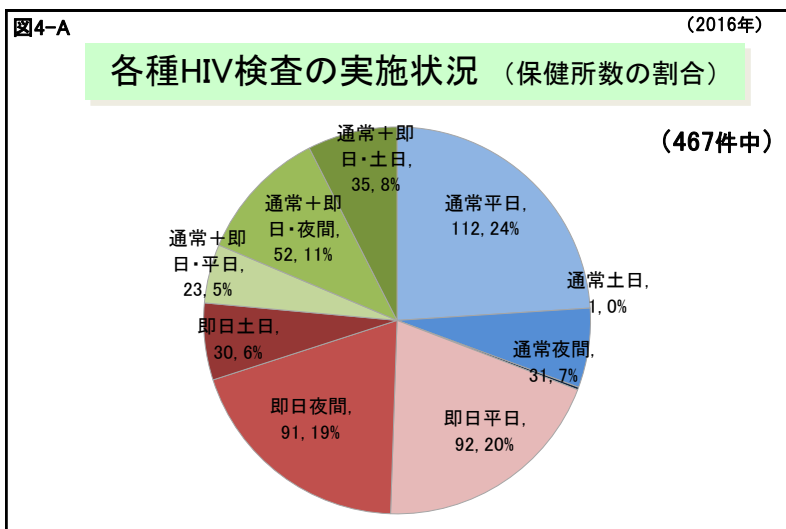
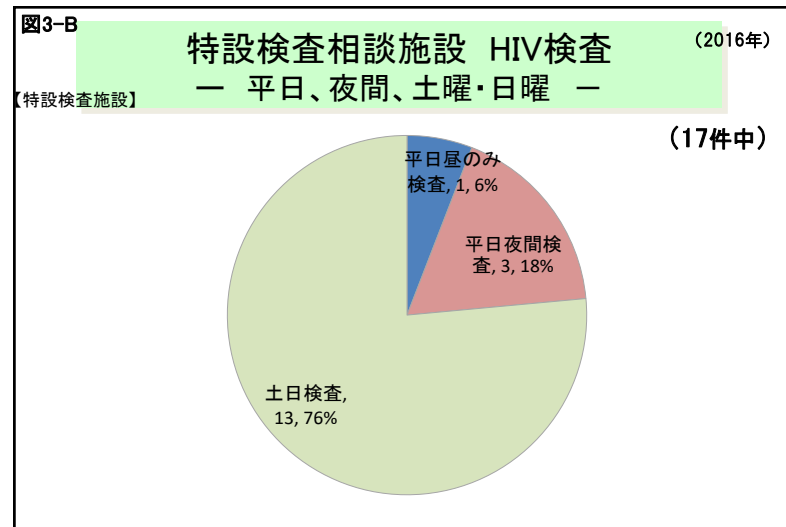
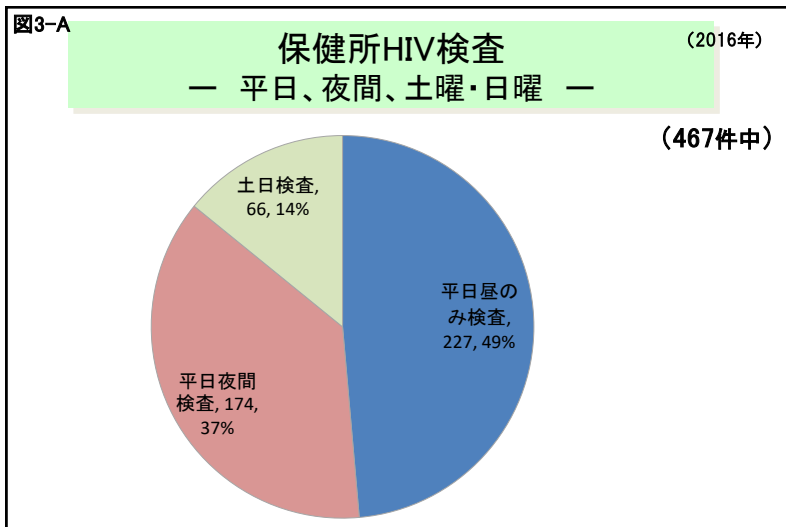
1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

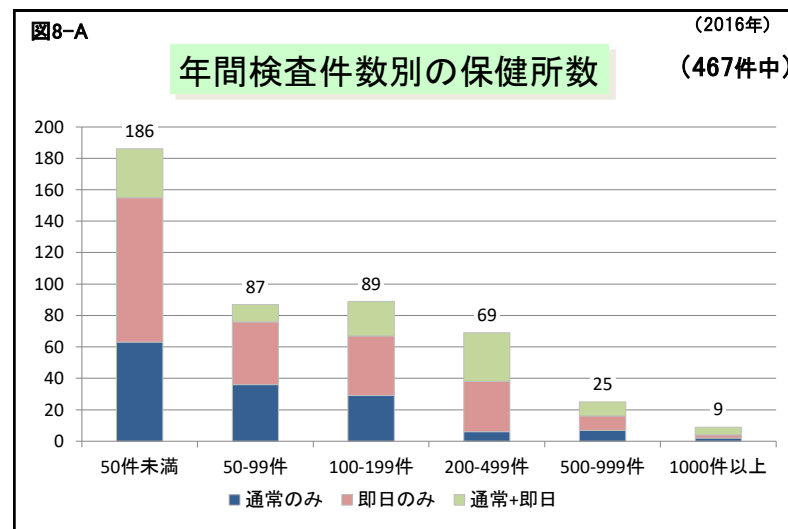
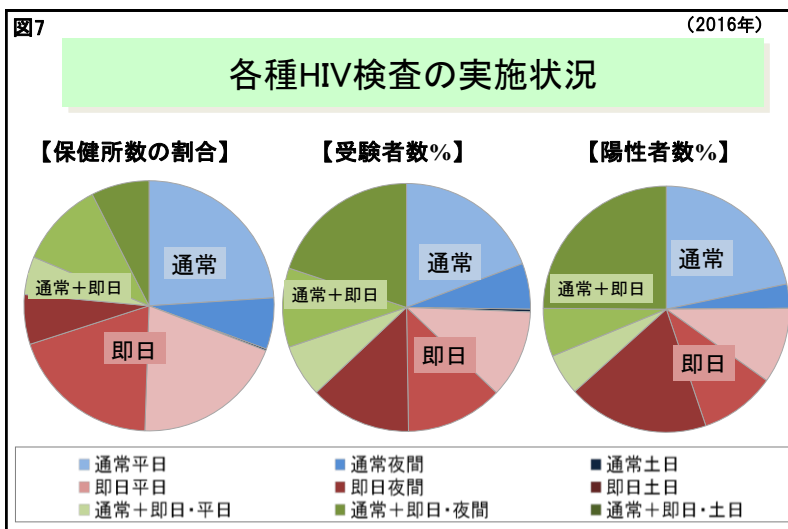
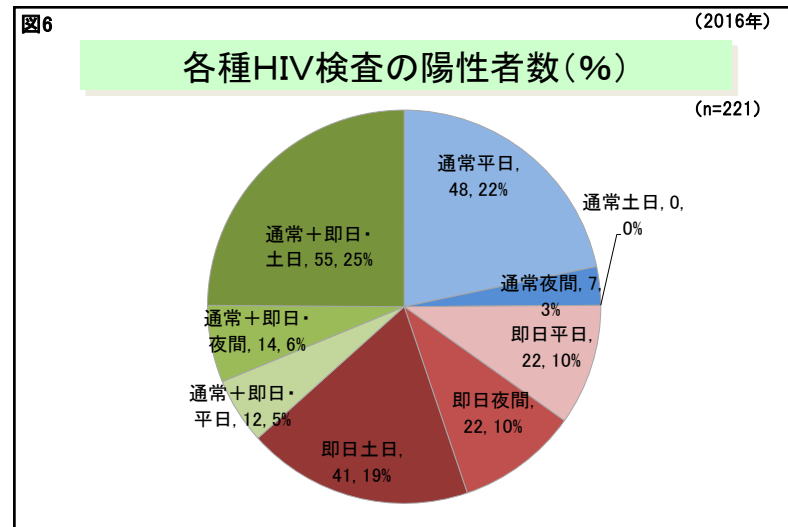
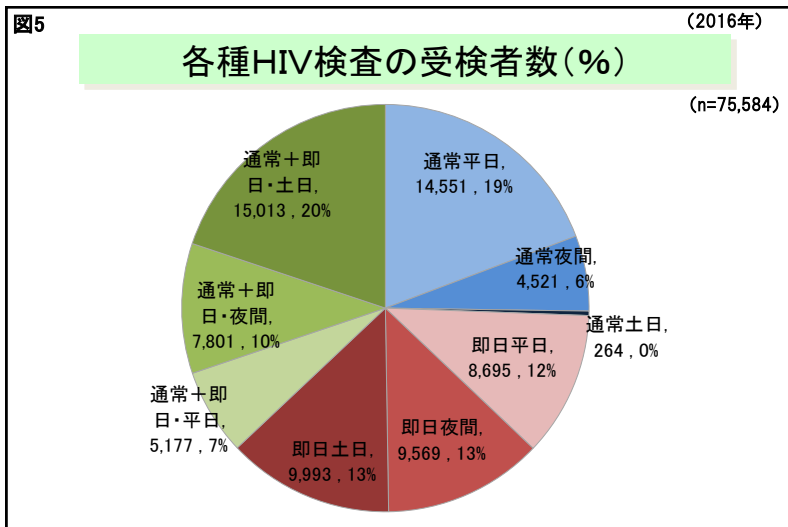
2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾. 中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

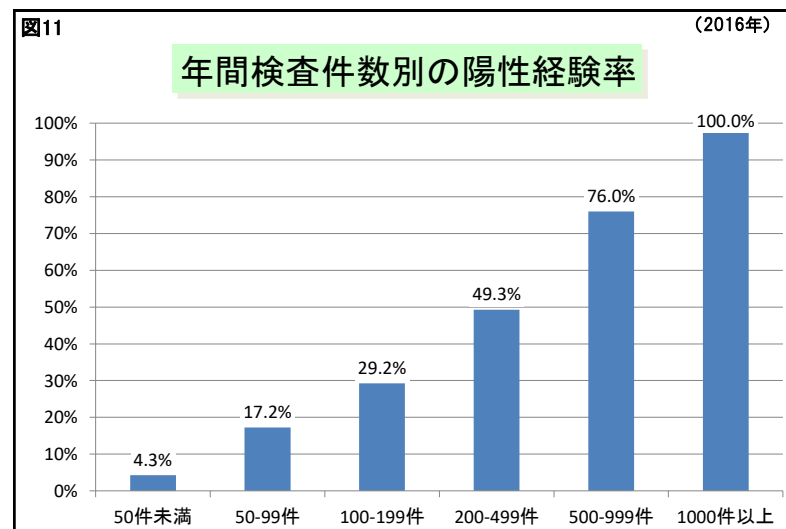
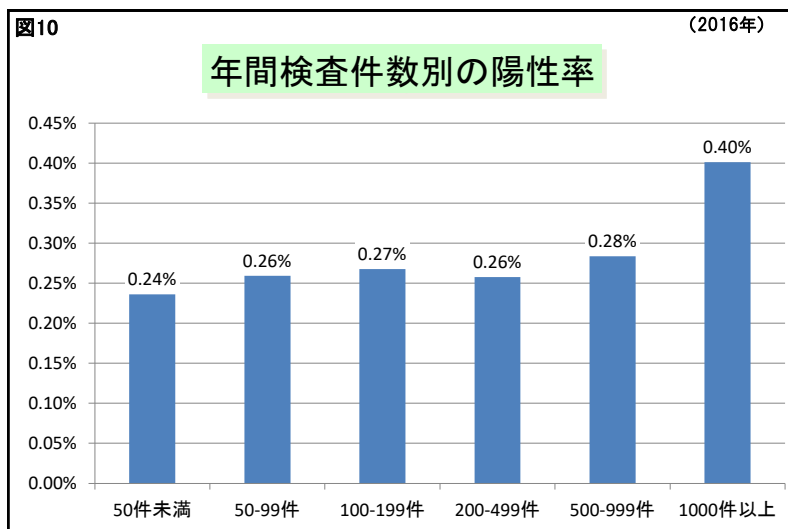
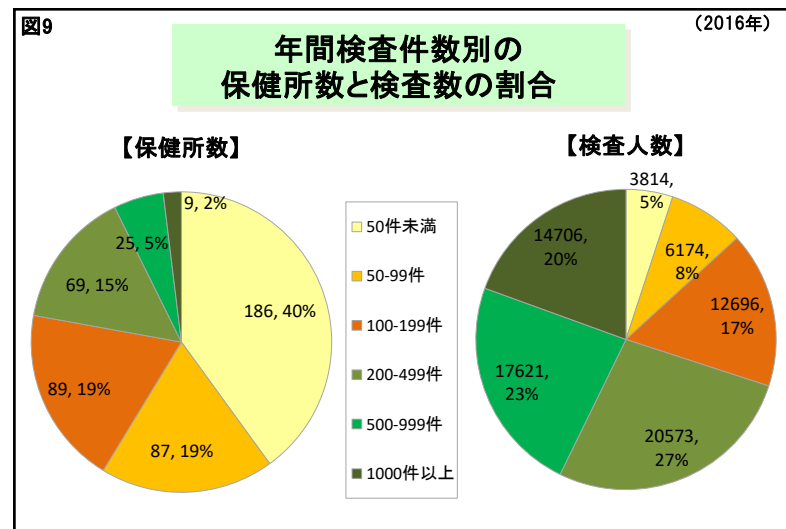
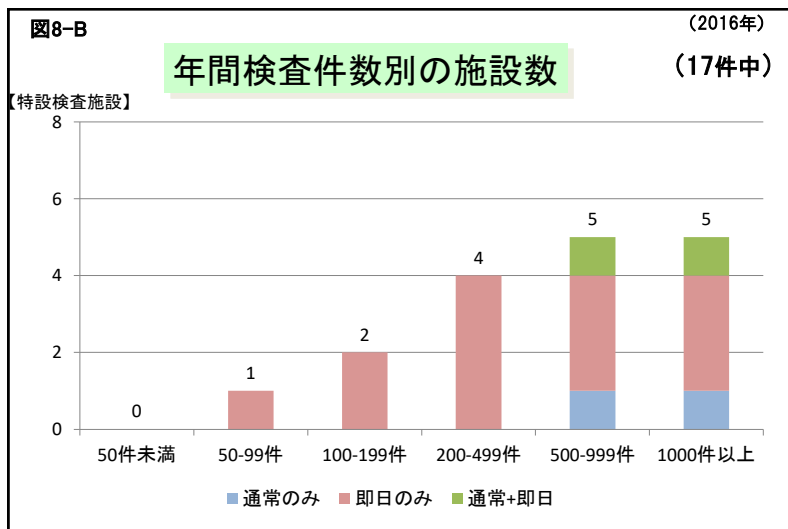
3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

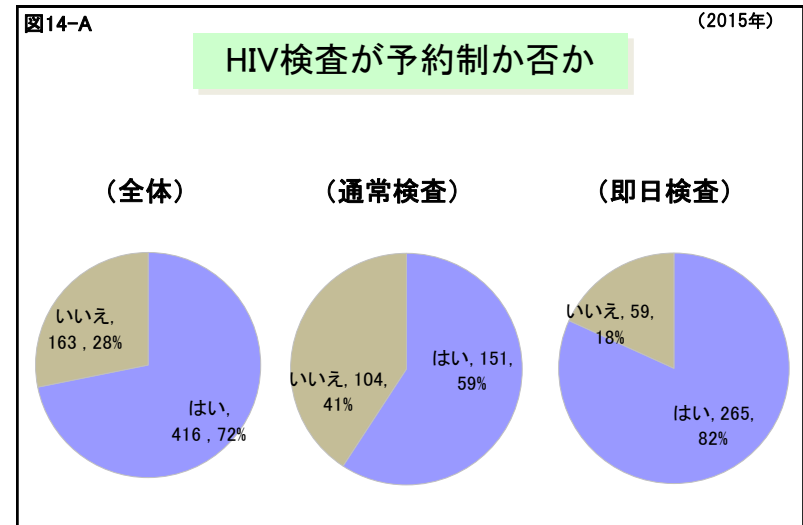
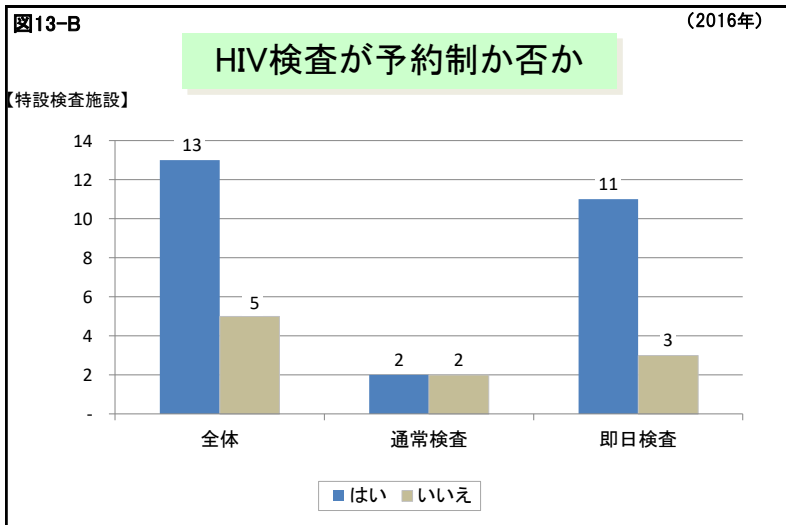
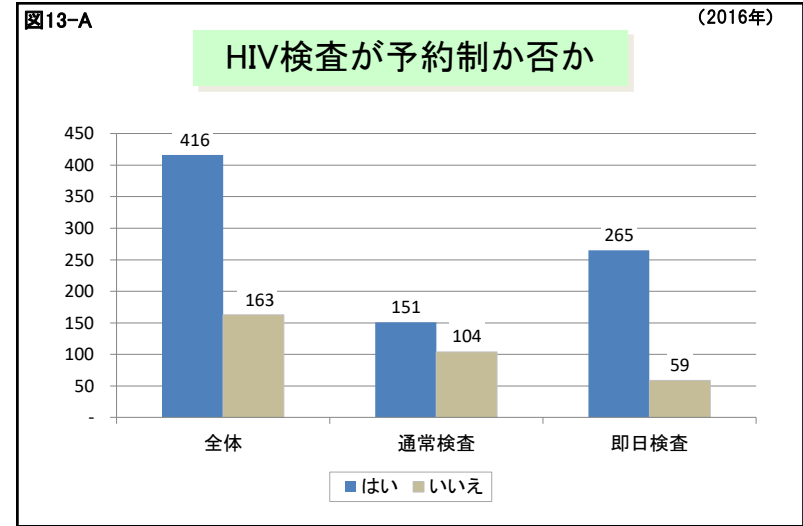
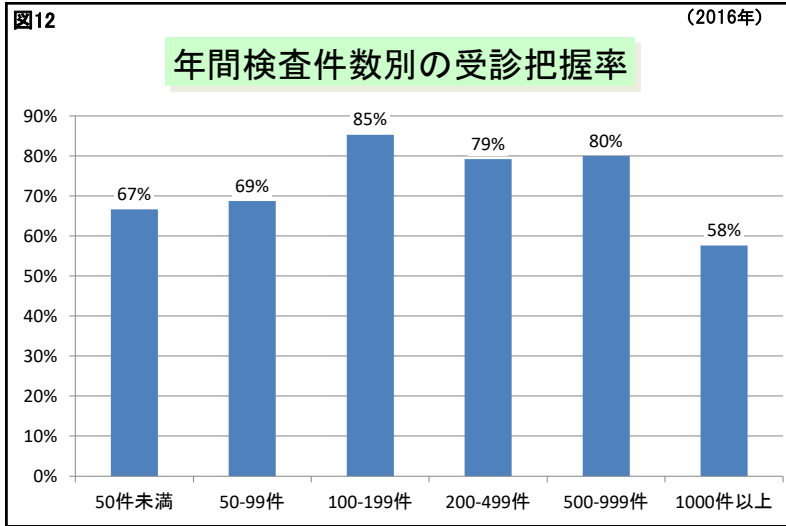
4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2015). 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

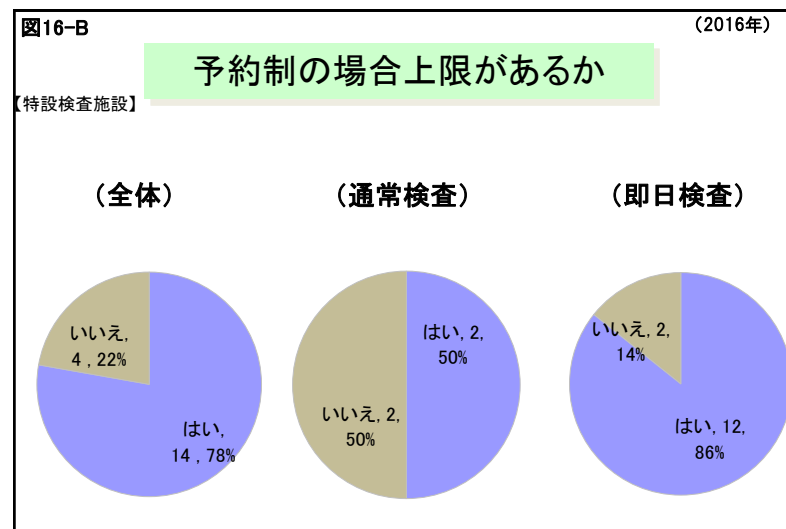
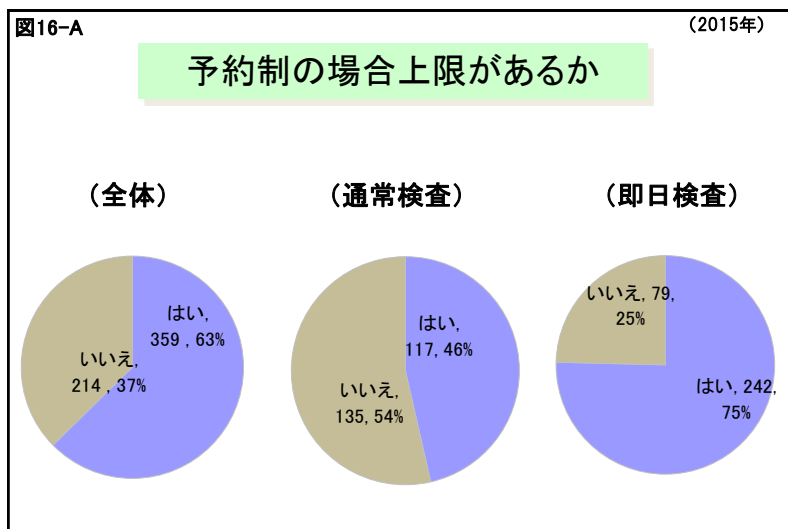
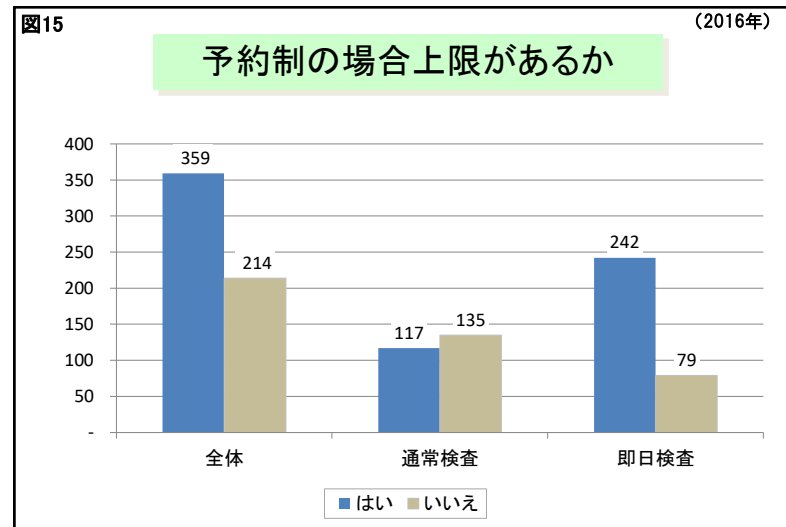
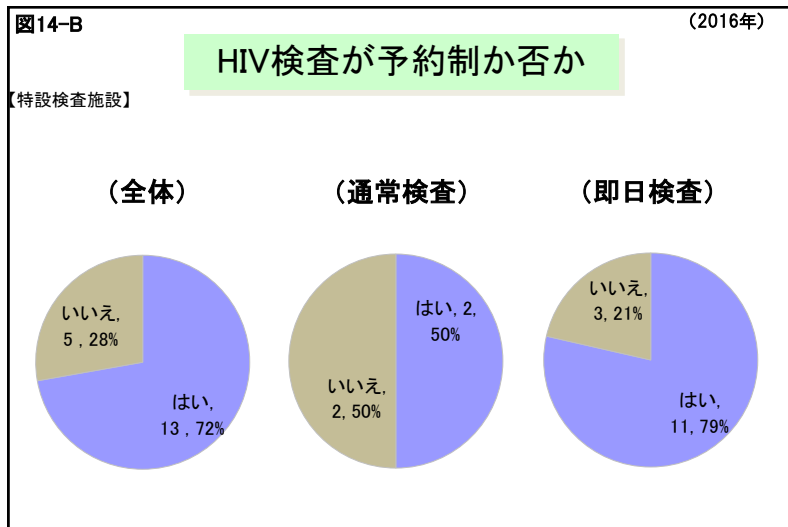


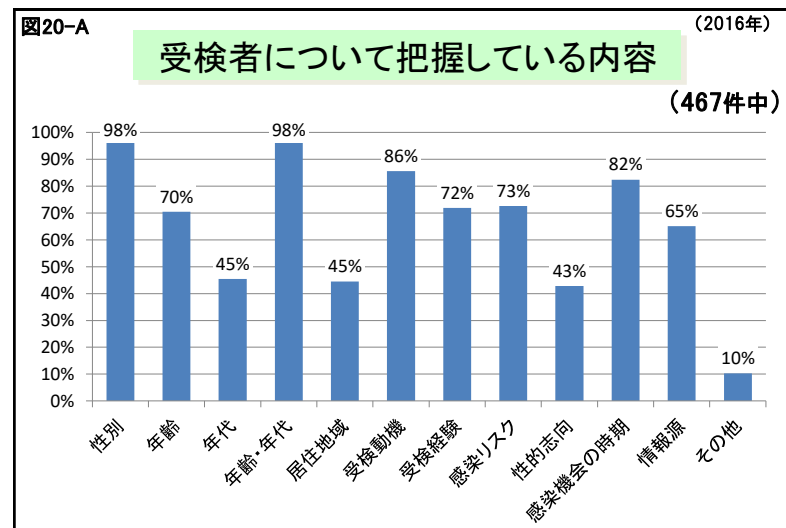
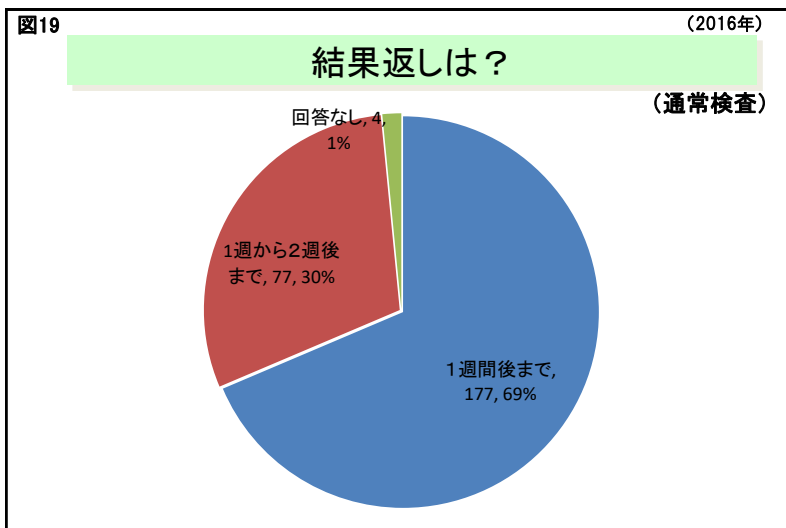
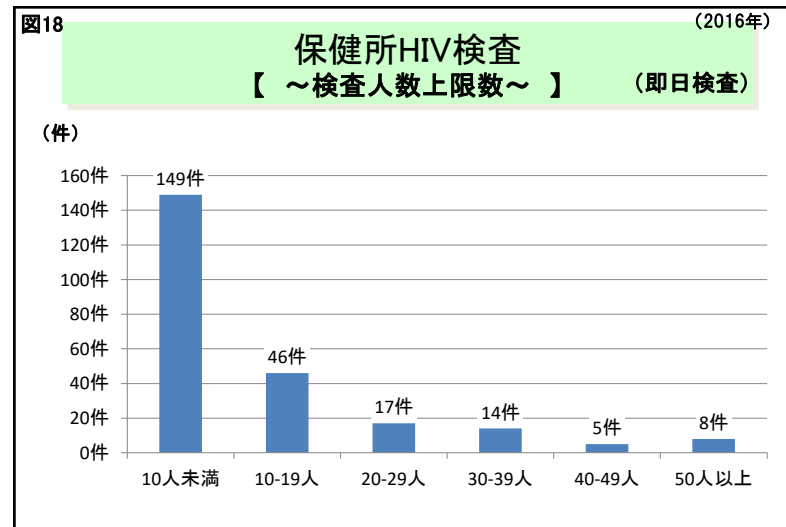
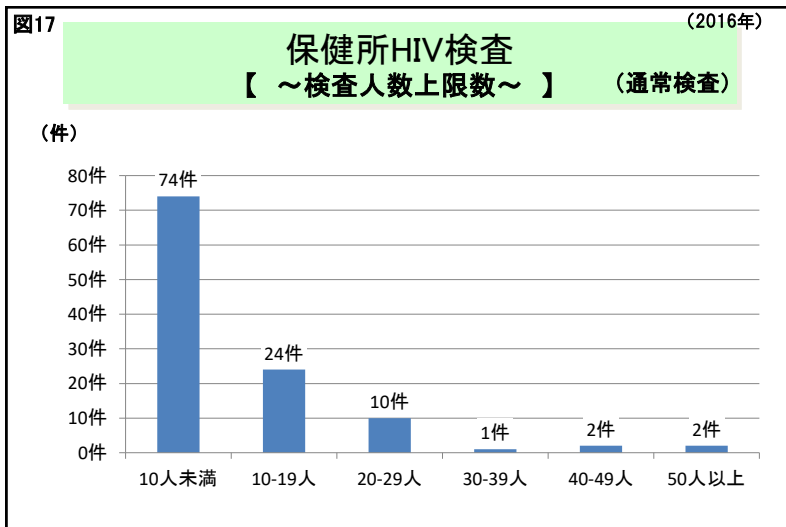


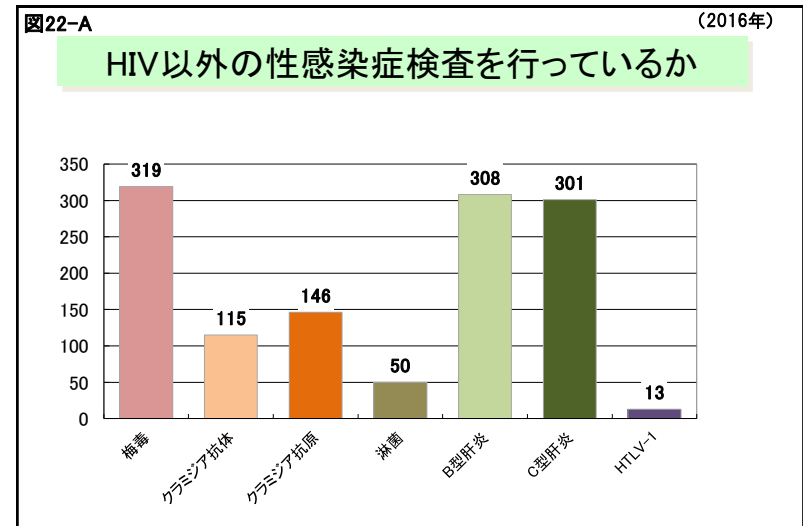
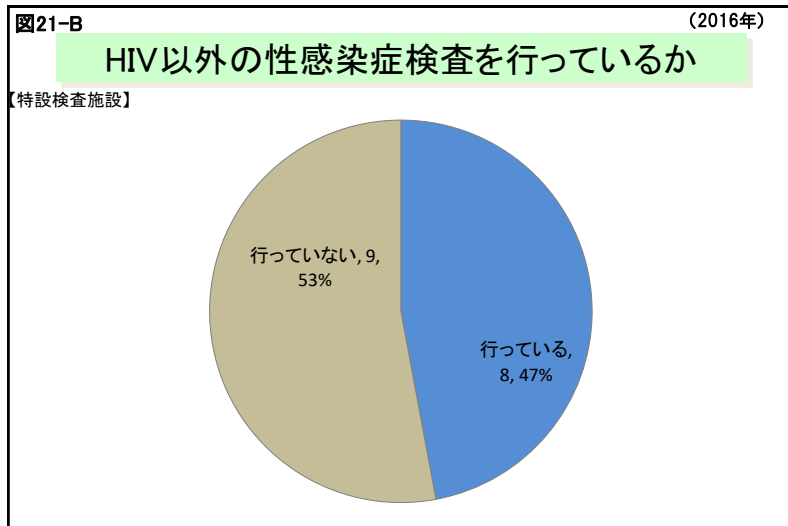
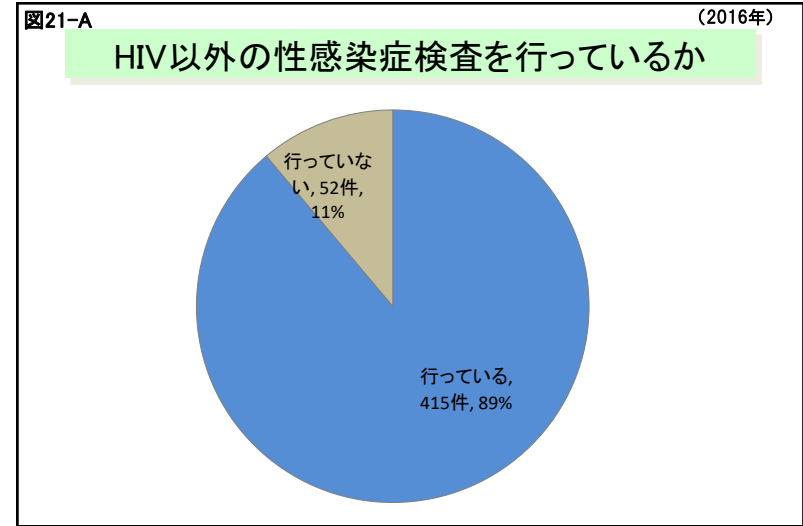
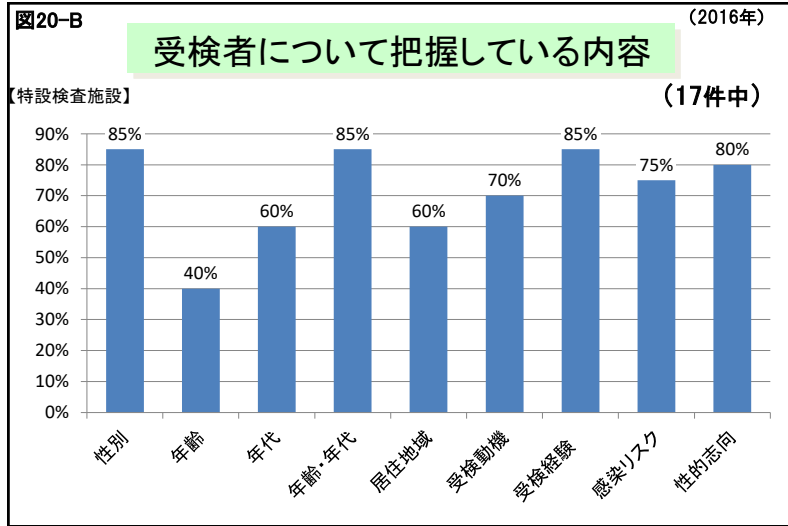


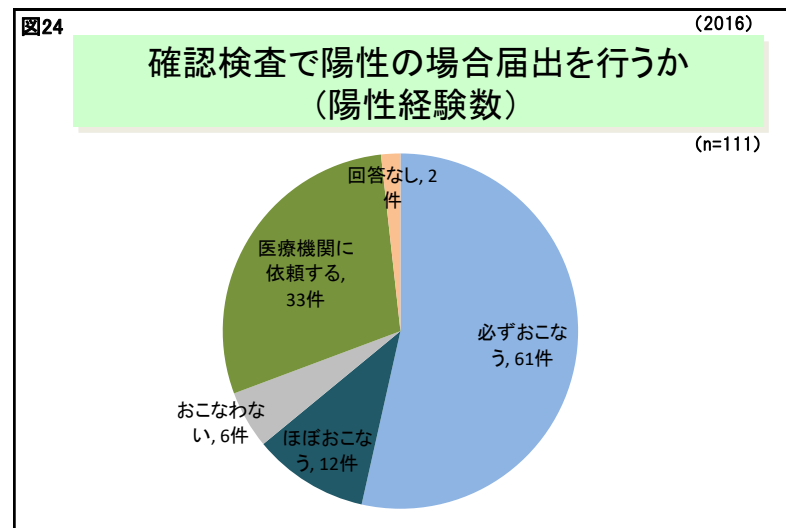
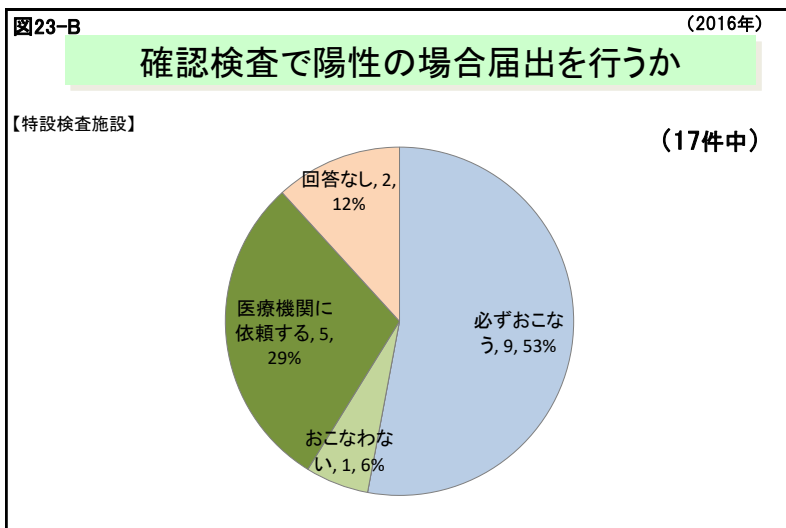
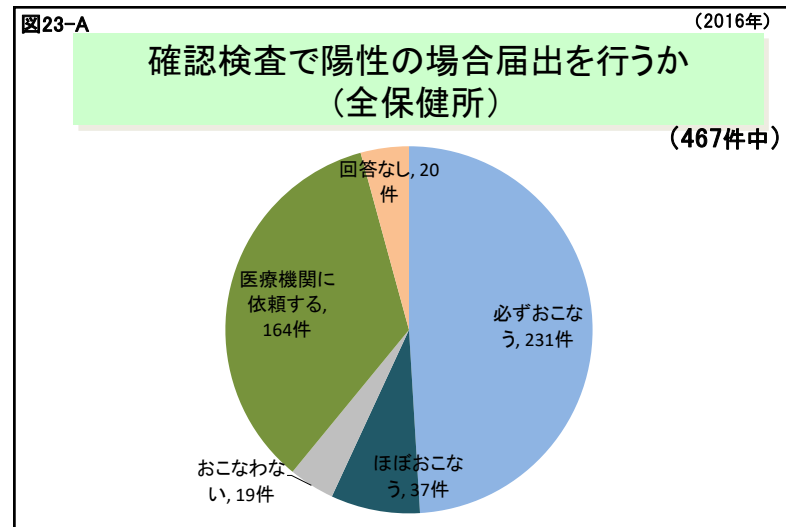
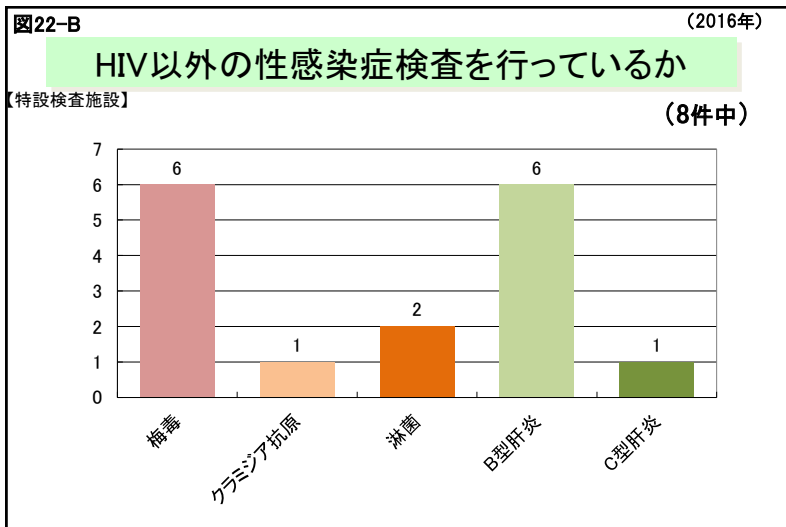


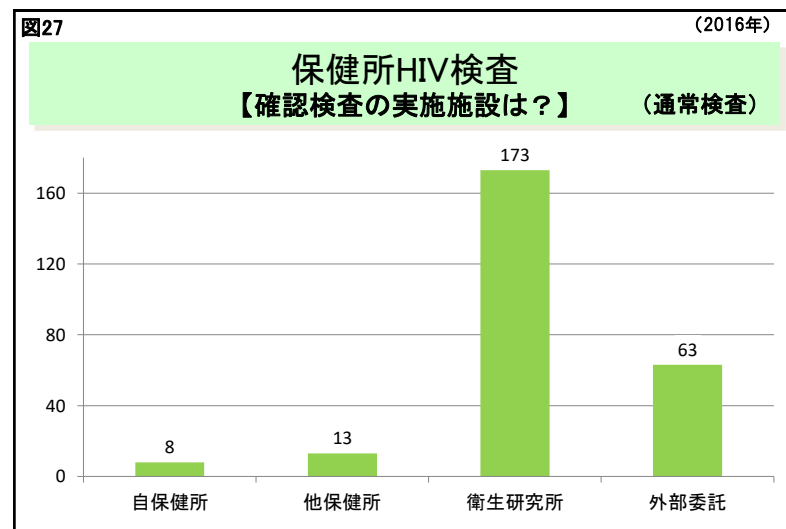
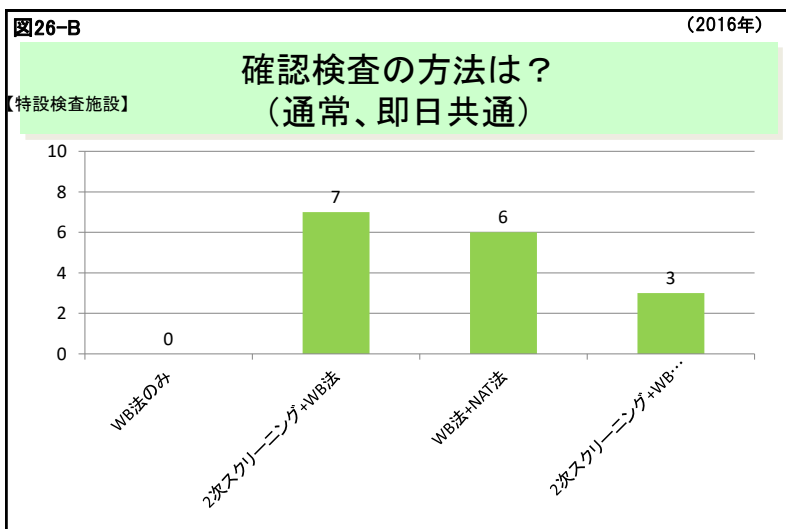
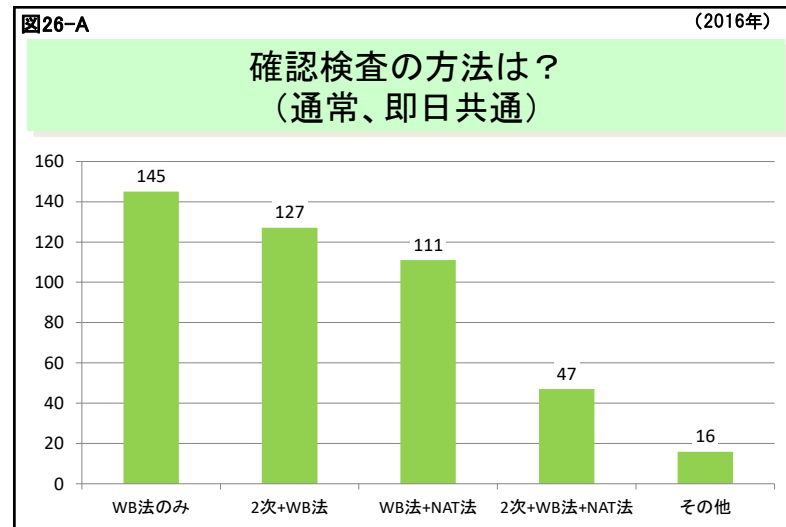
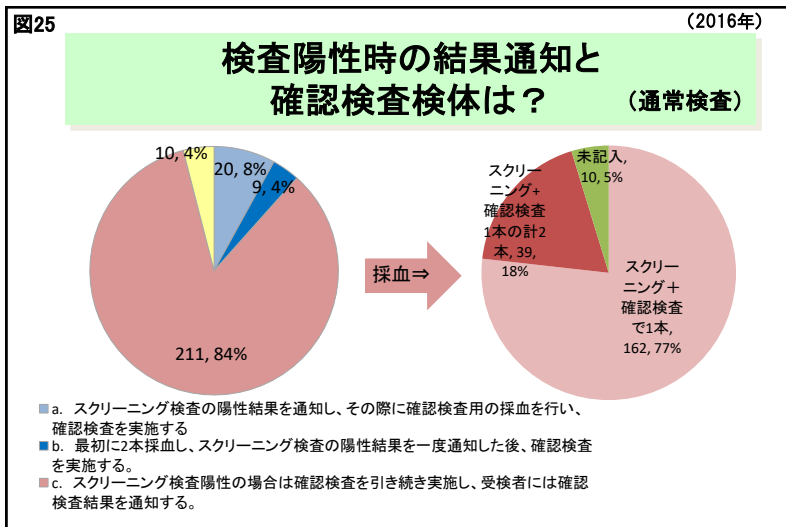


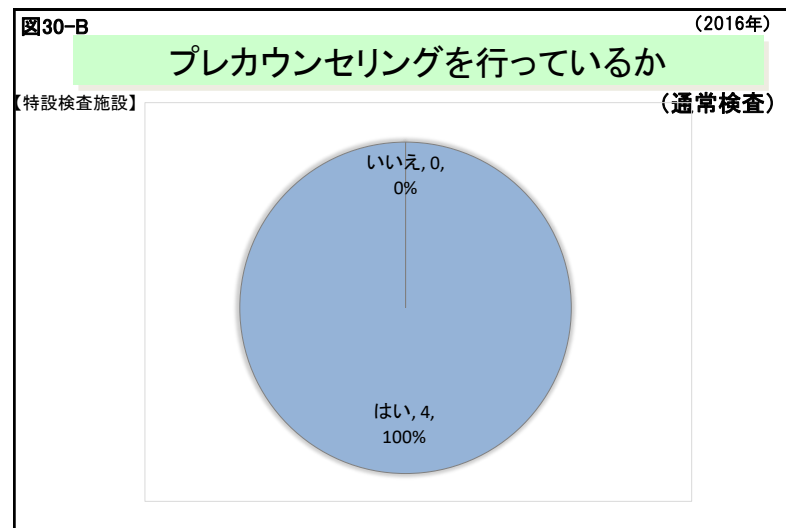
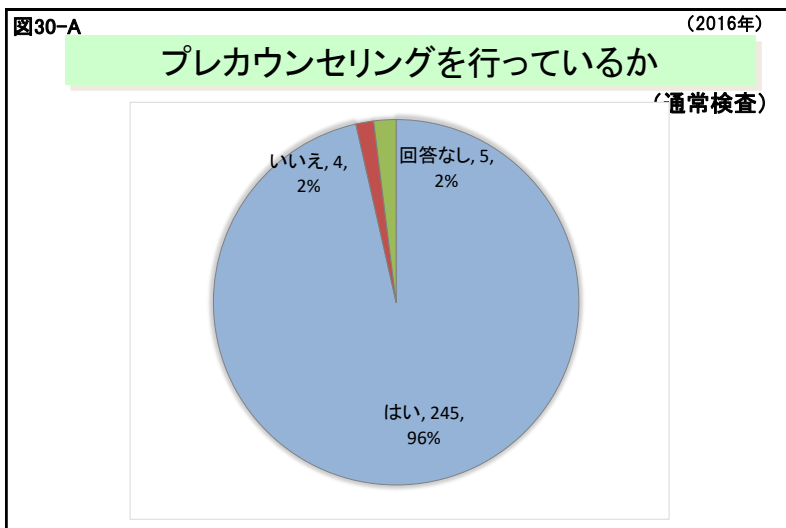
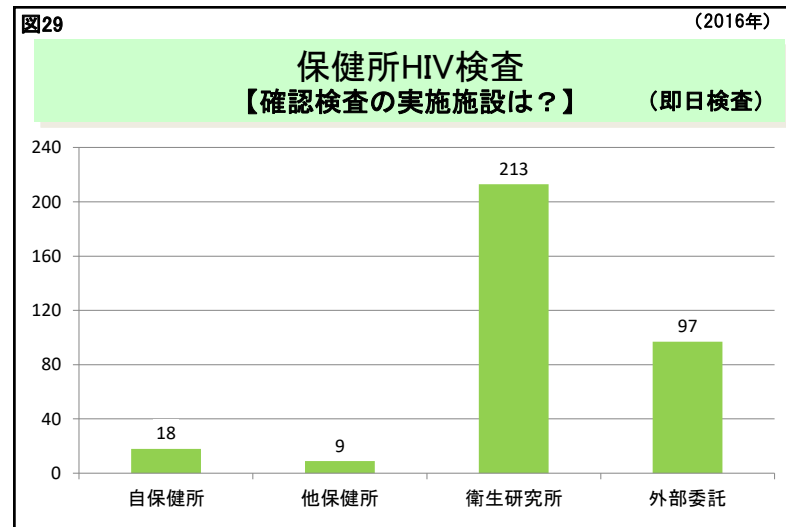
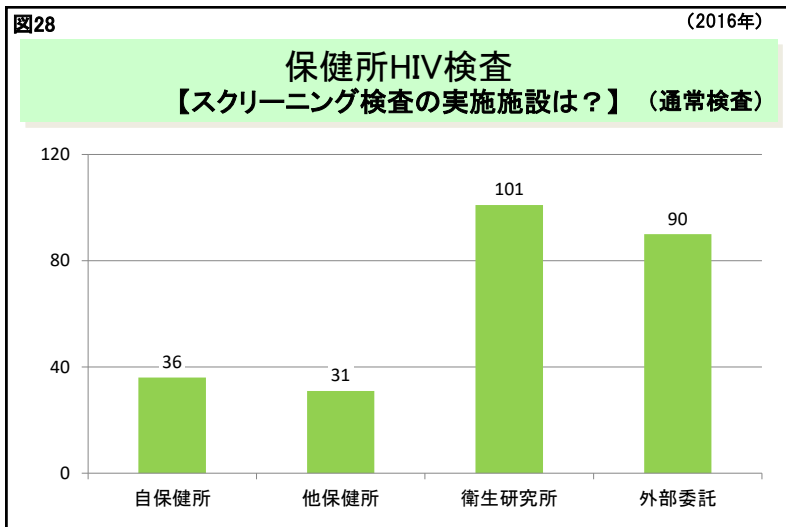


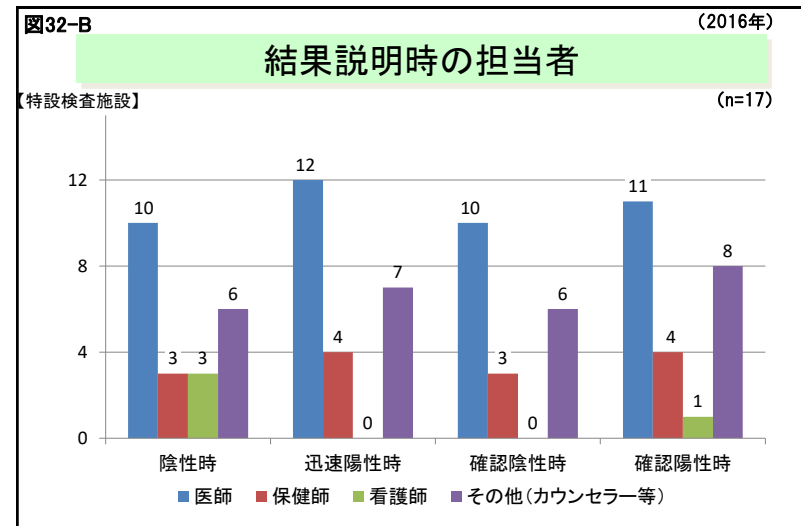
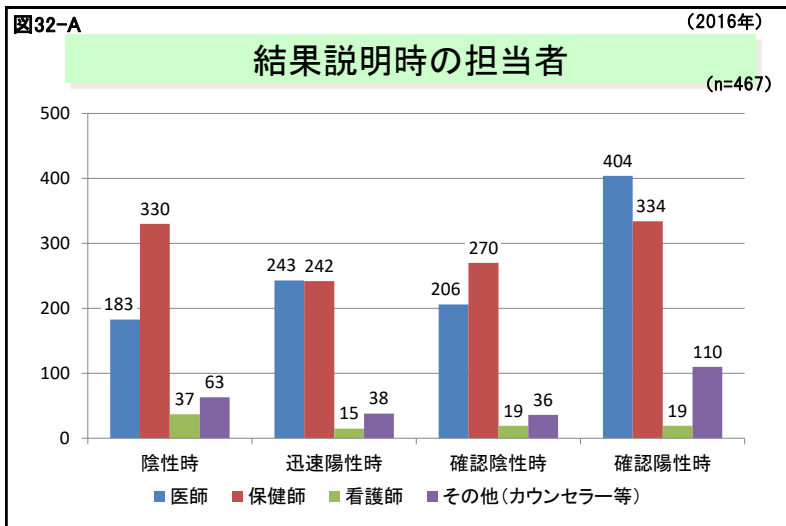
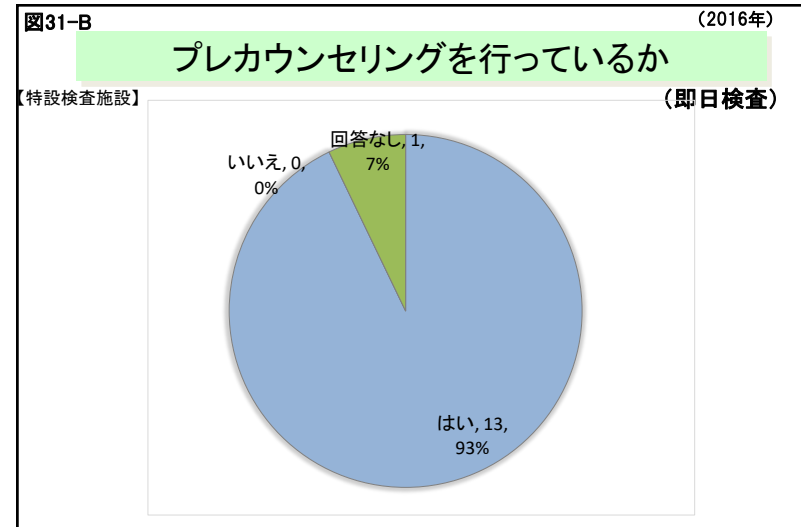
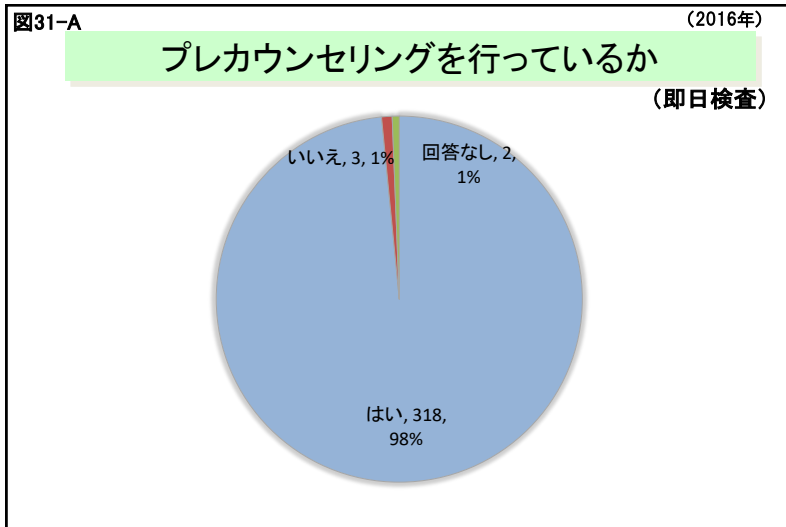


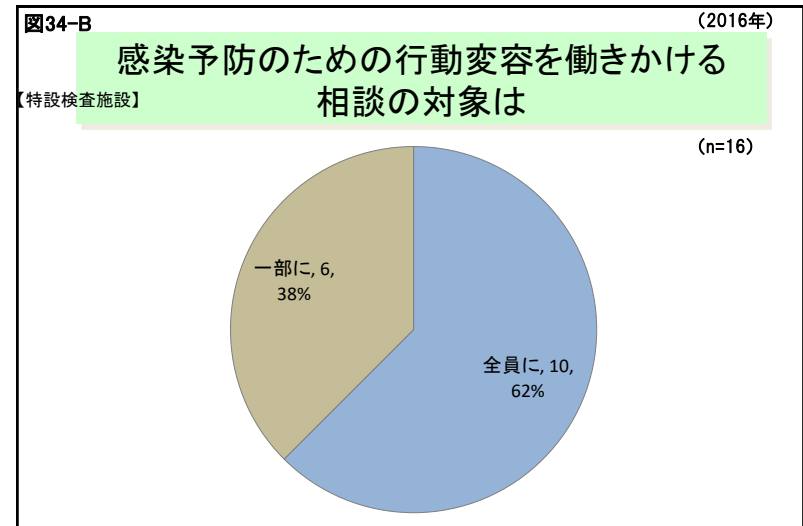
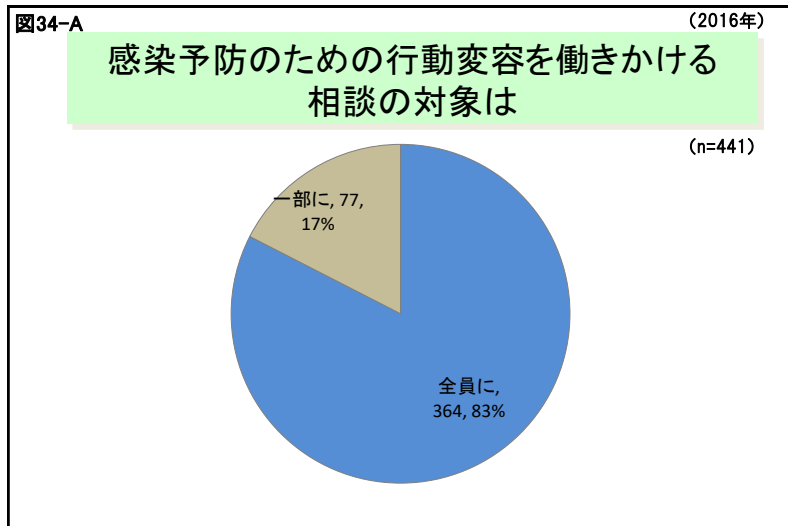
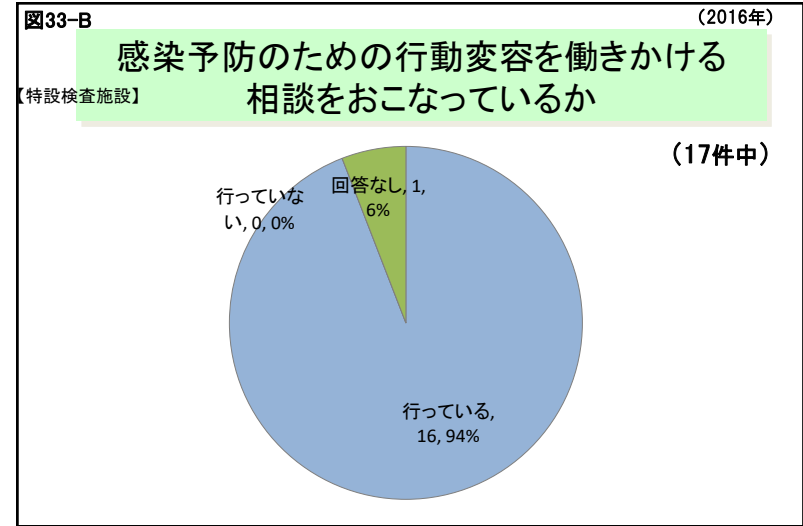
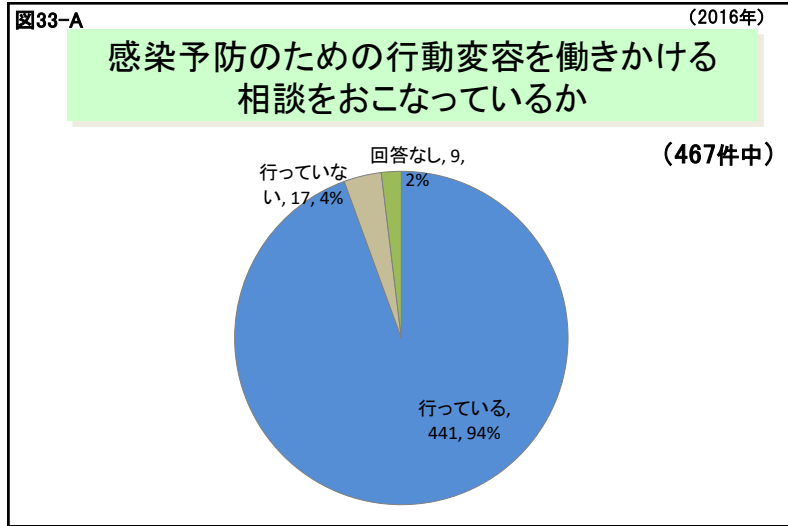


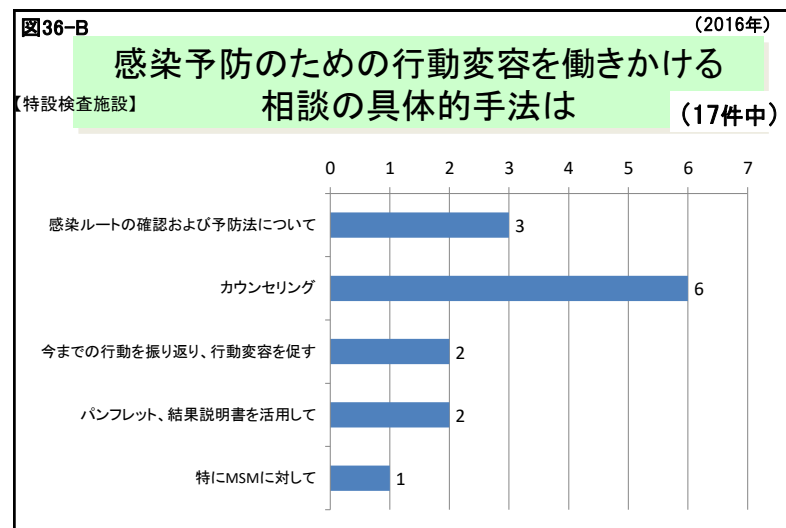
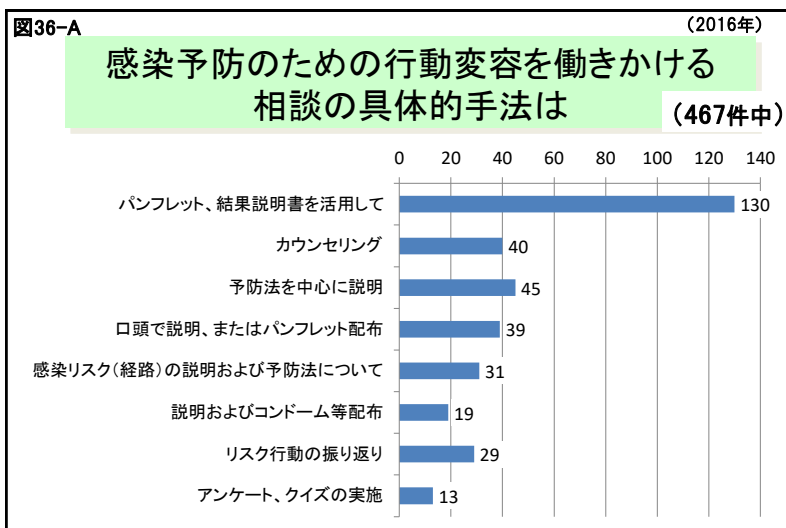
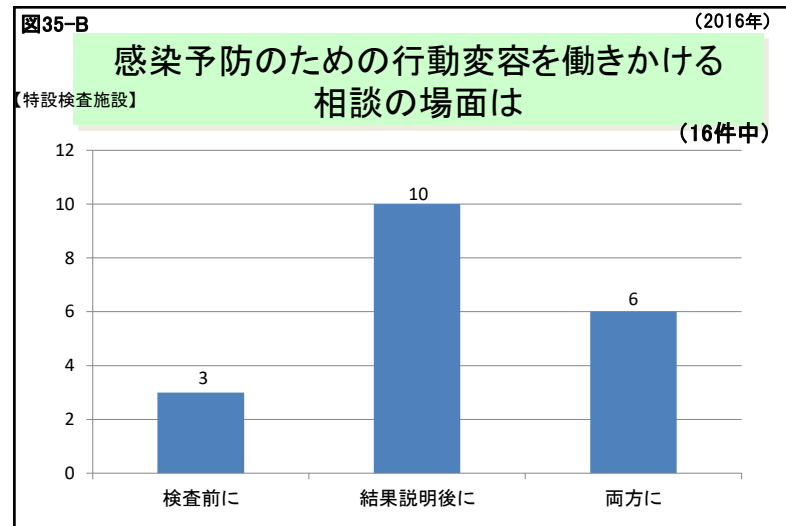
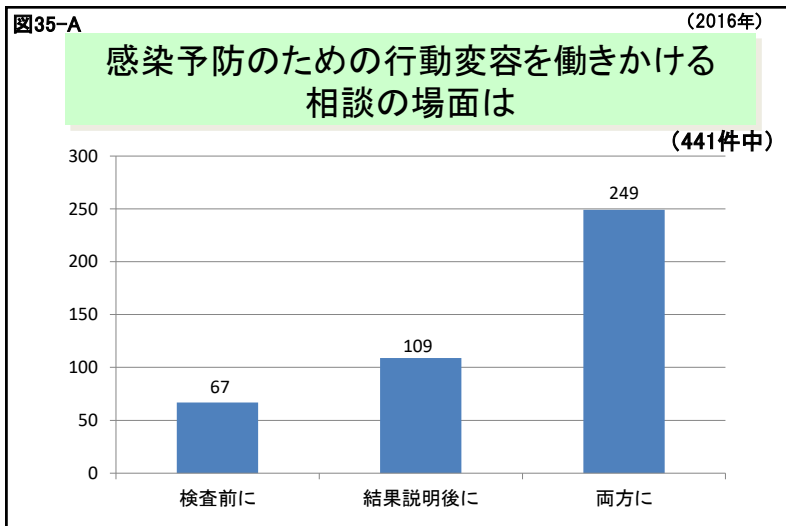


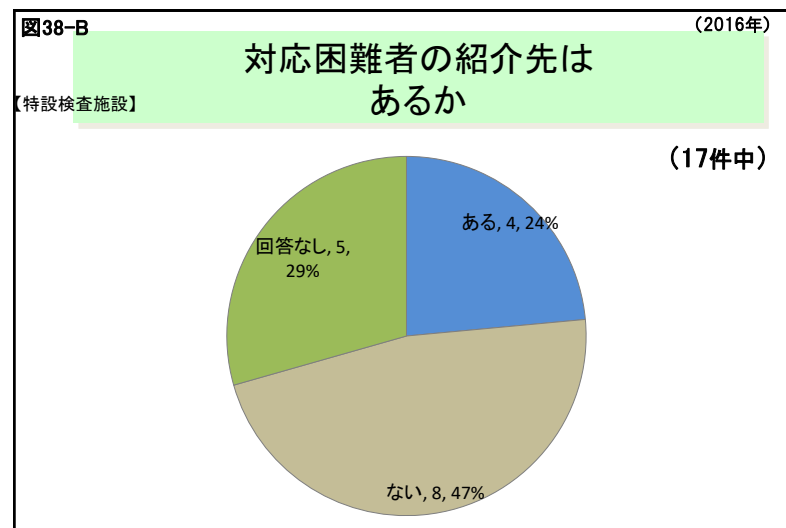
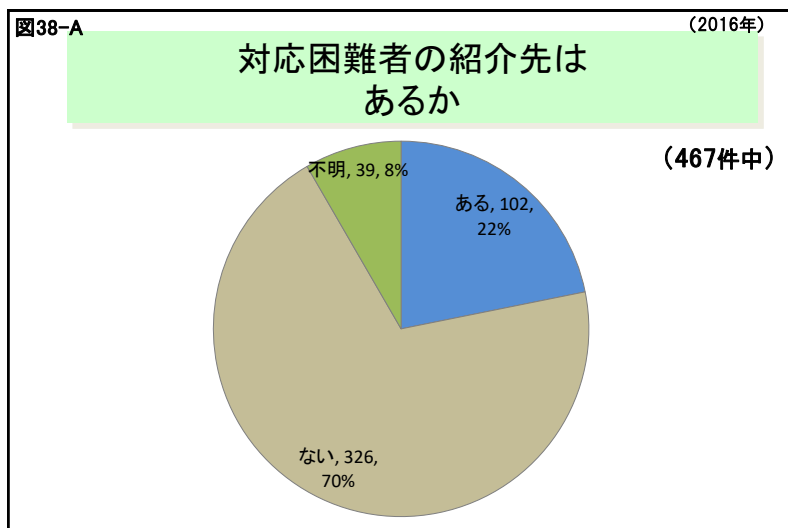
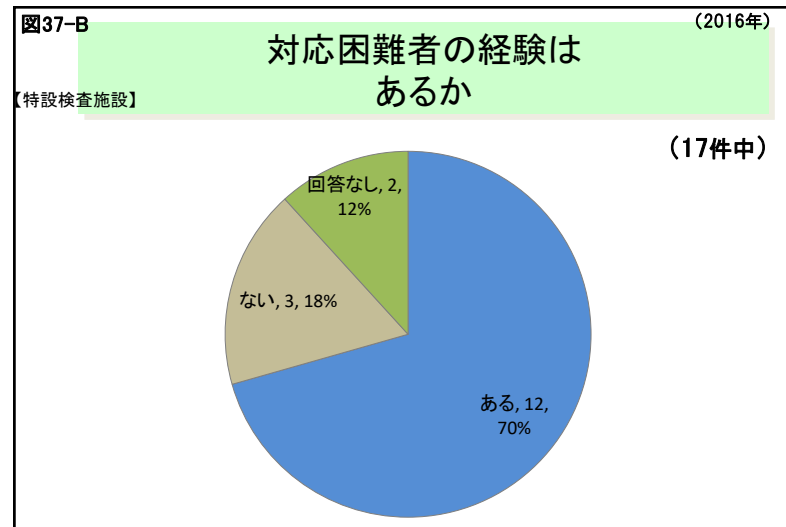
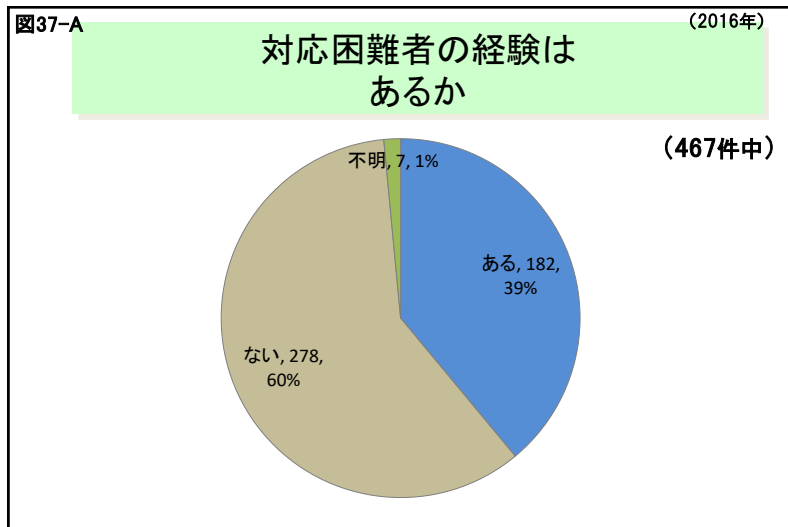


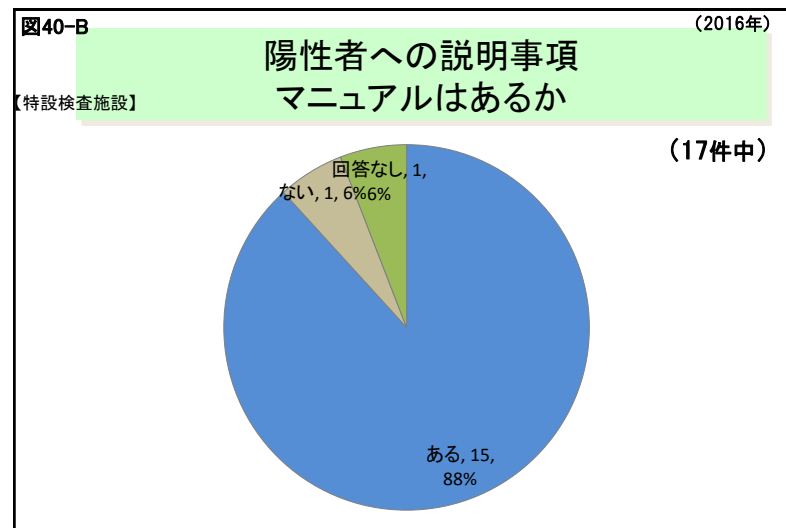
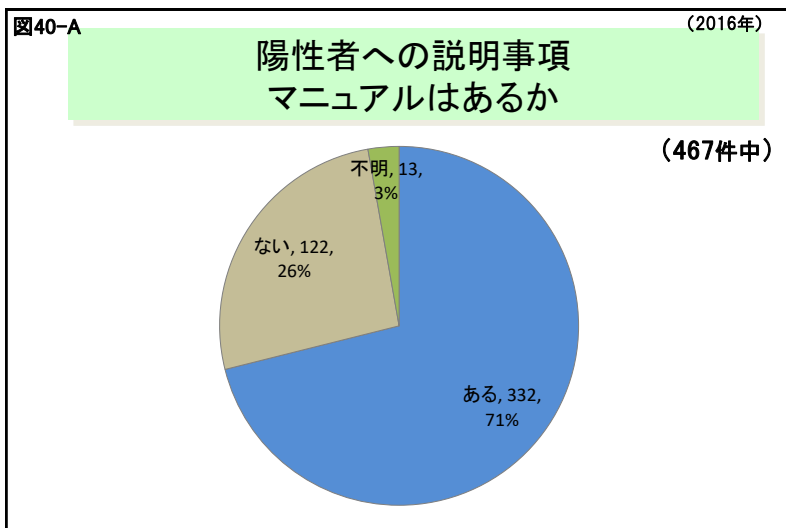
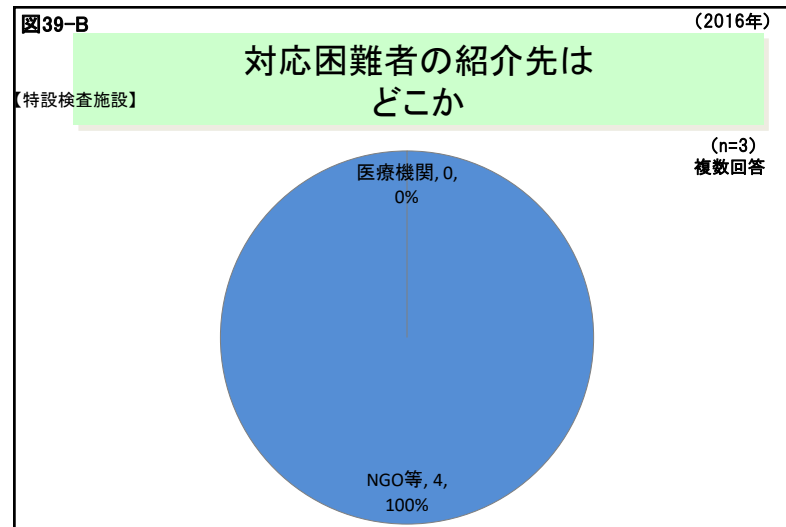
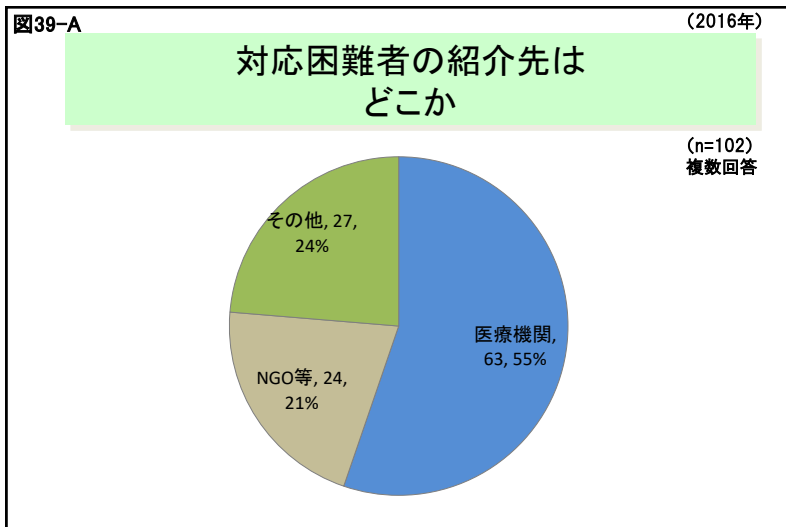


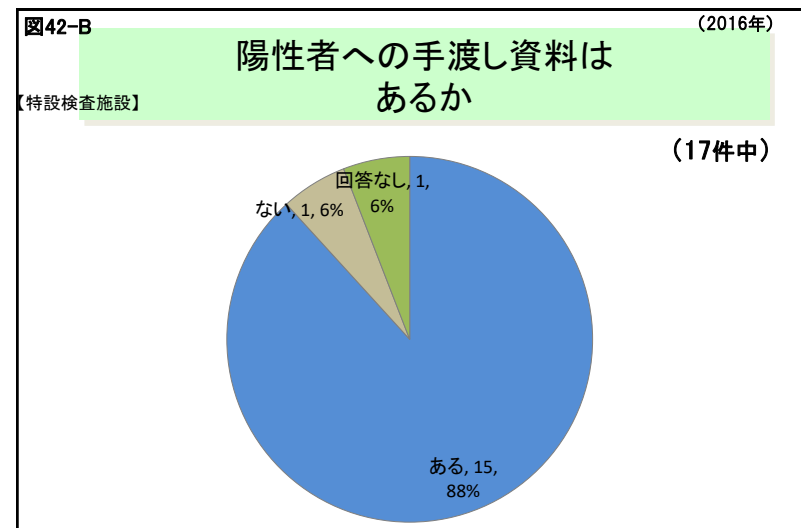
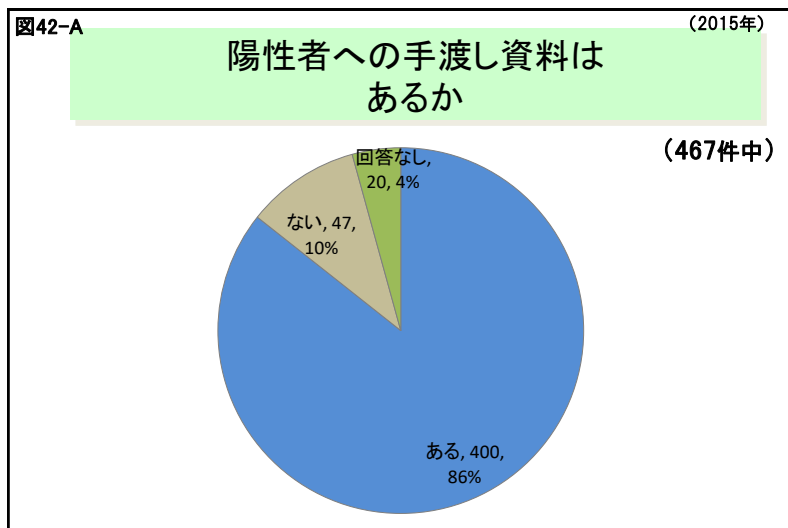
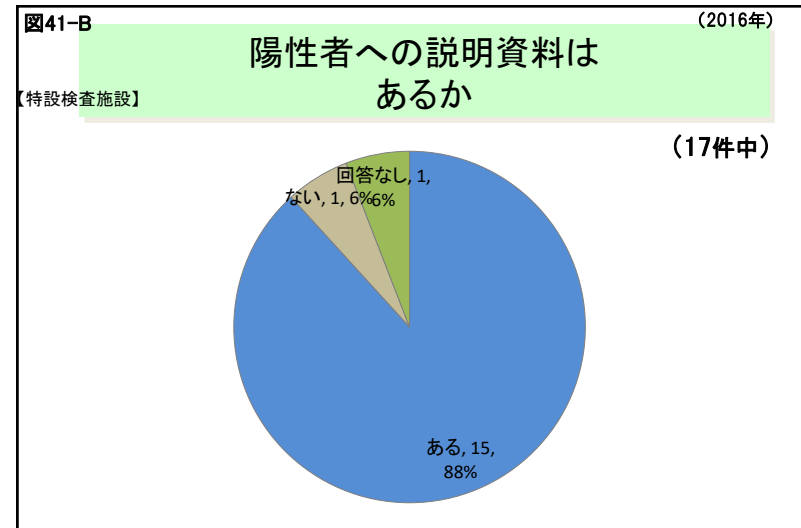
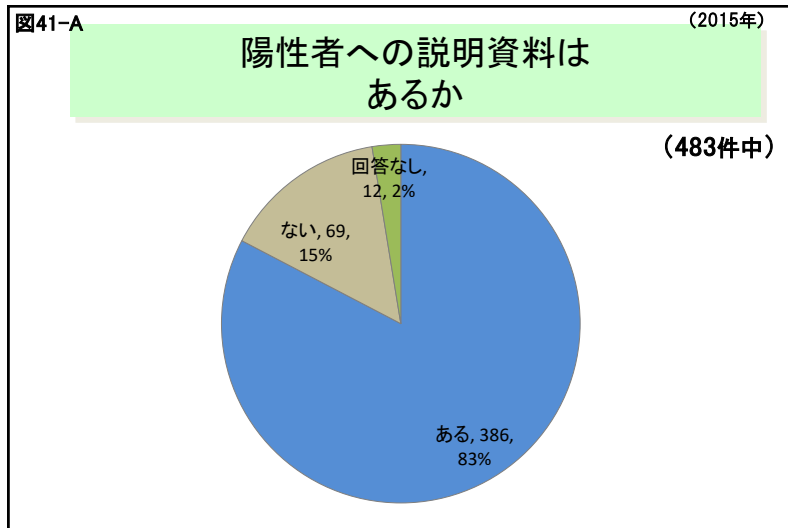


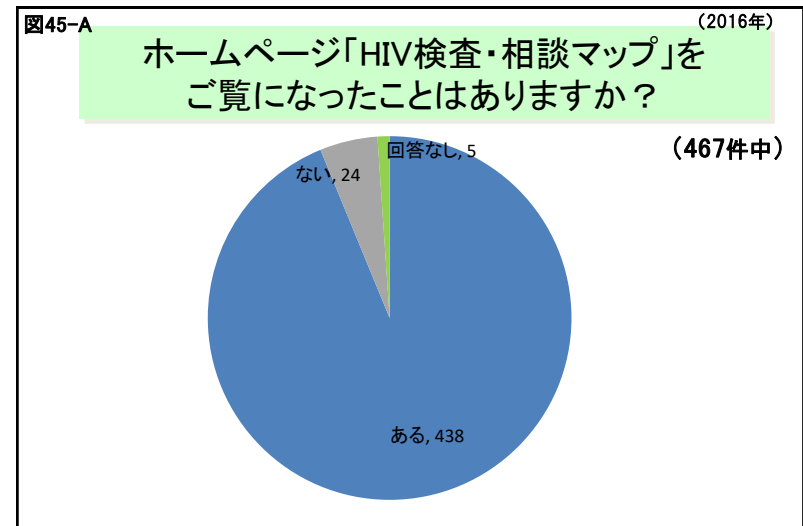
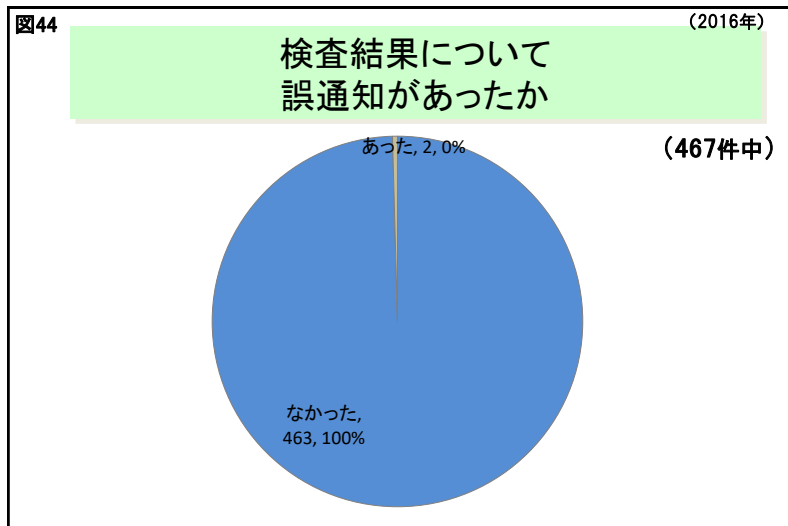
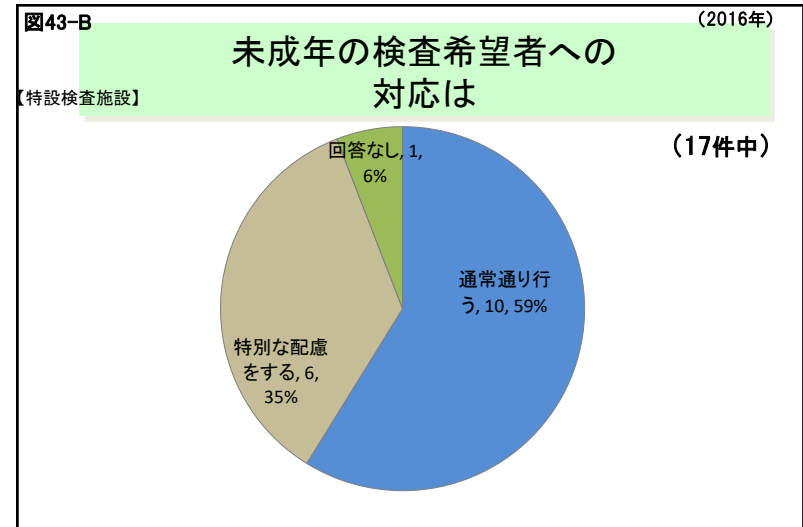
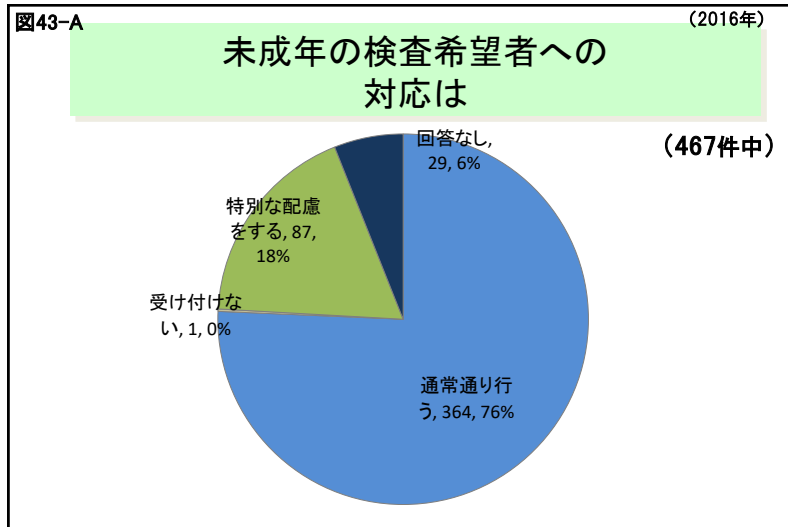


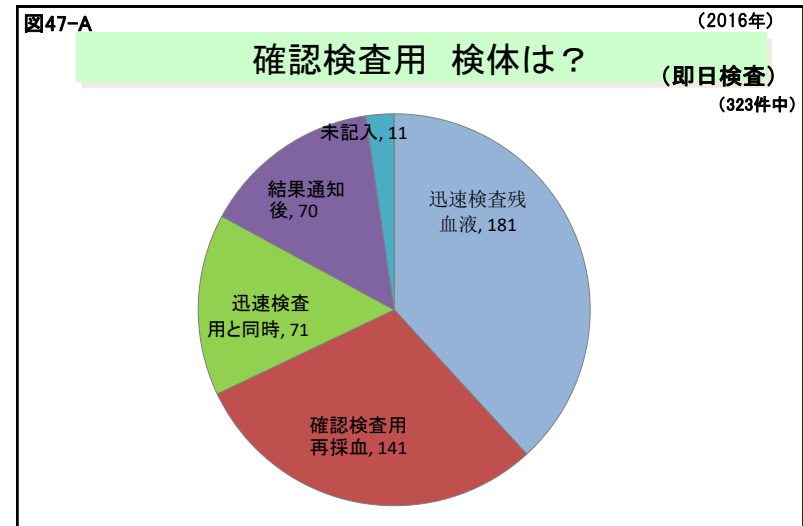
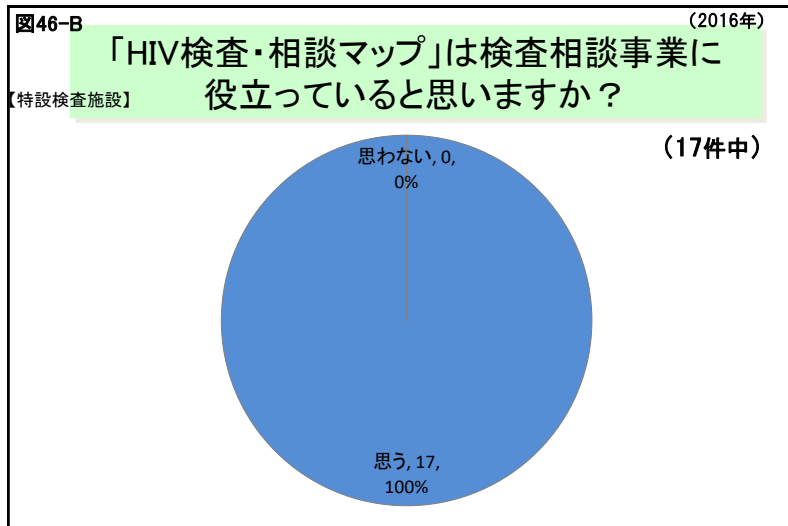
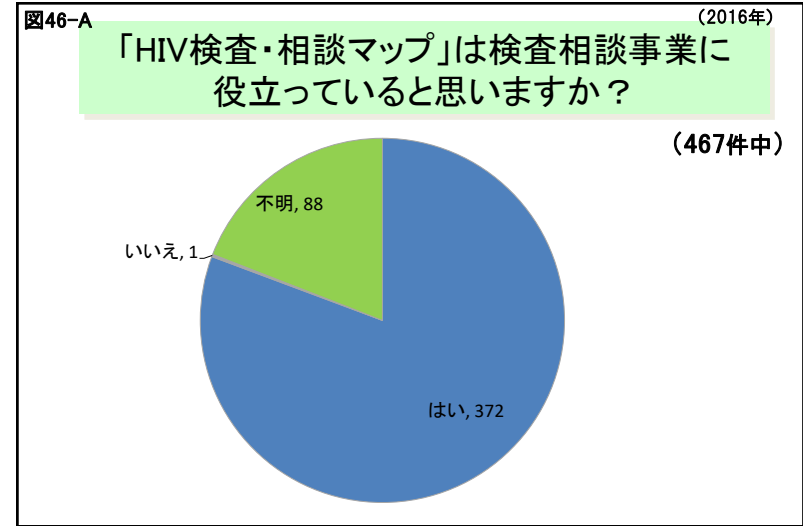
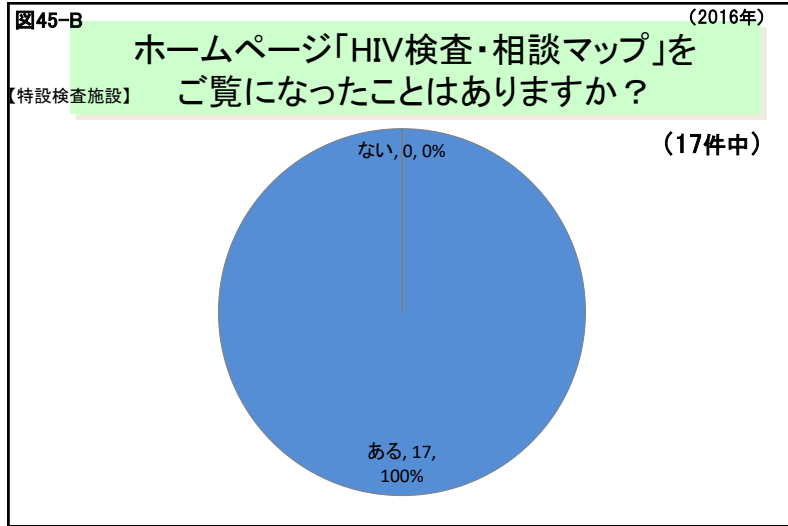


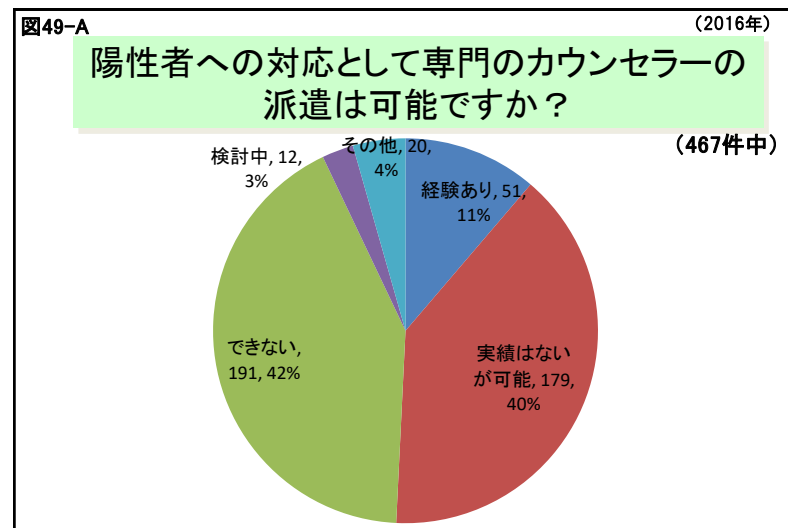
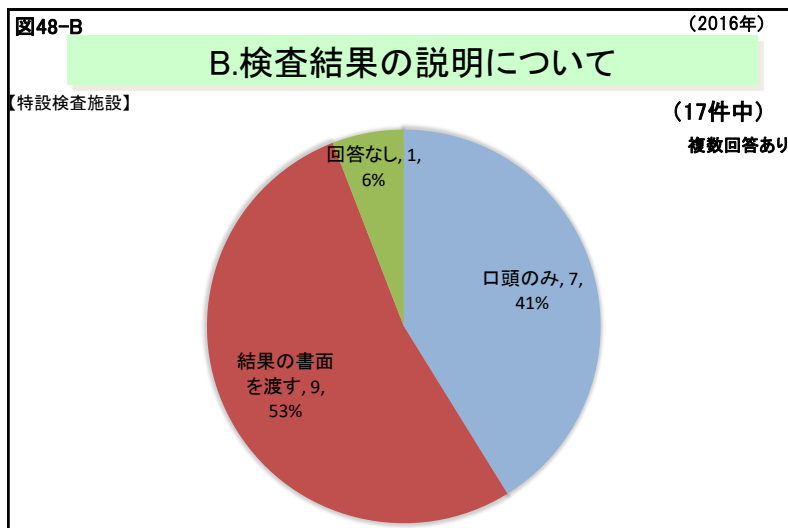
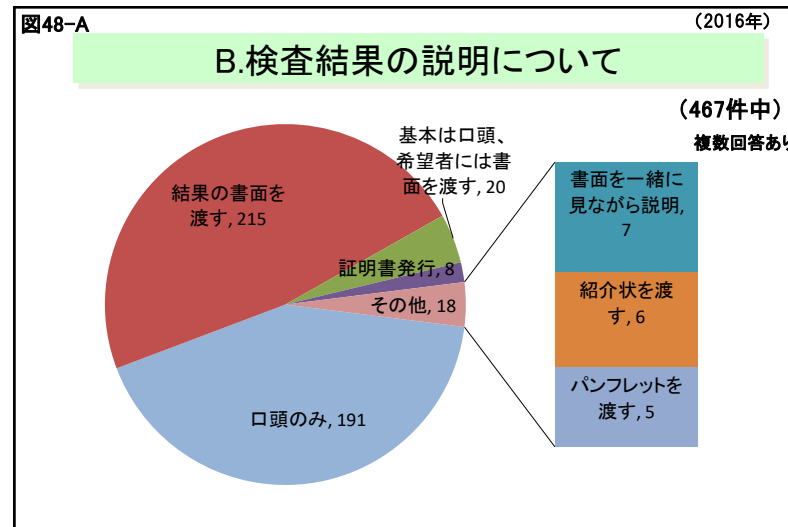
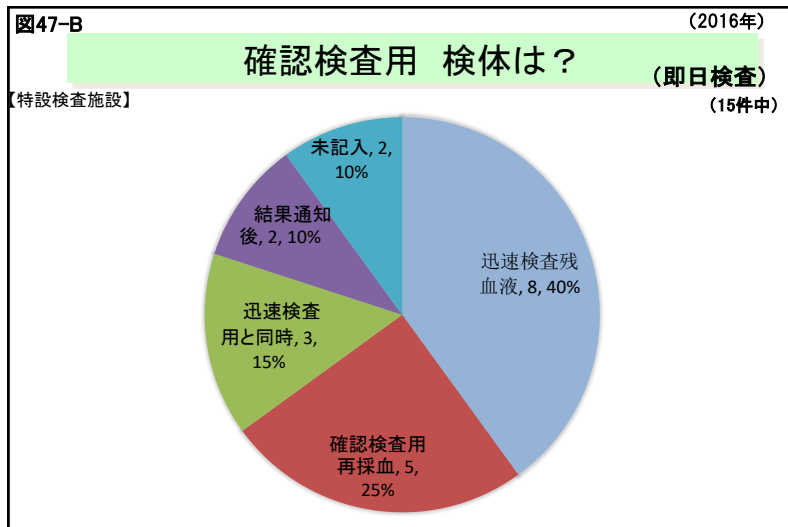


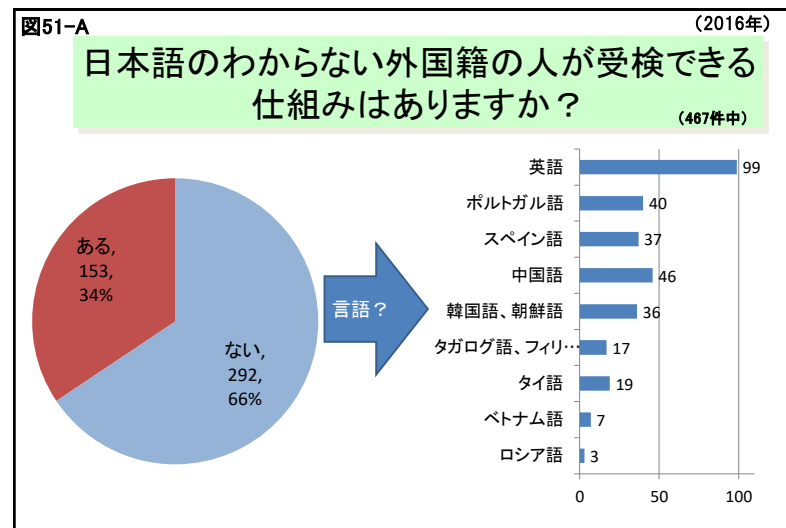
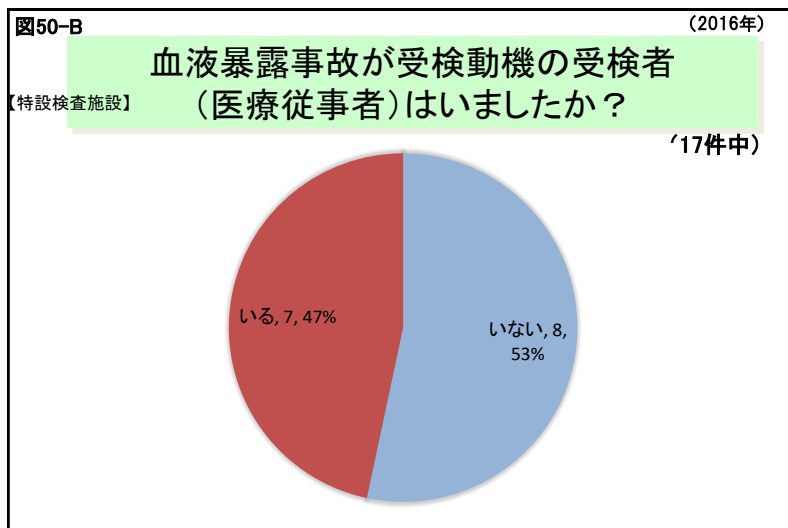
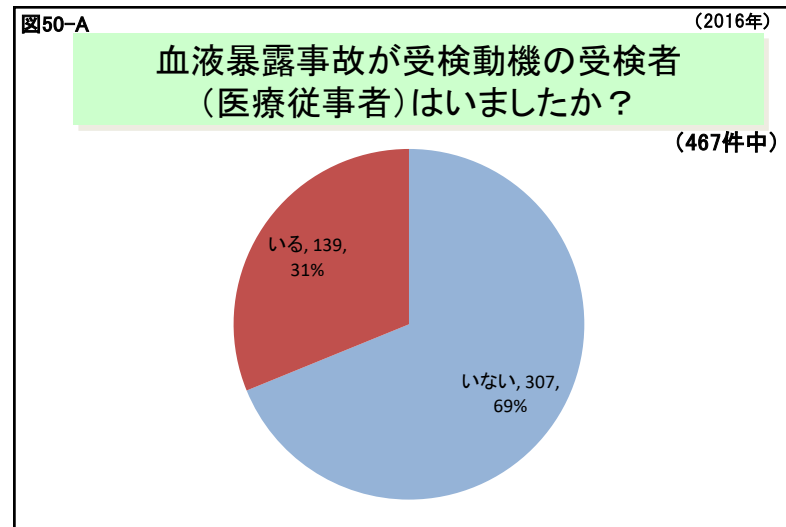
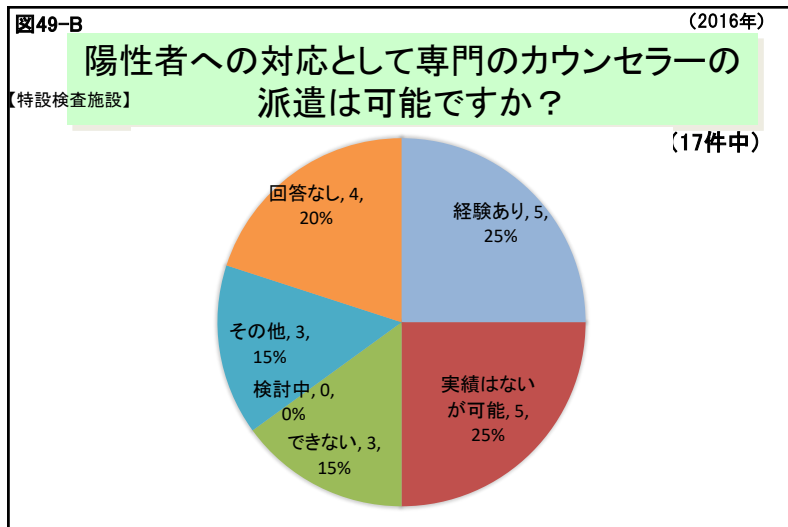


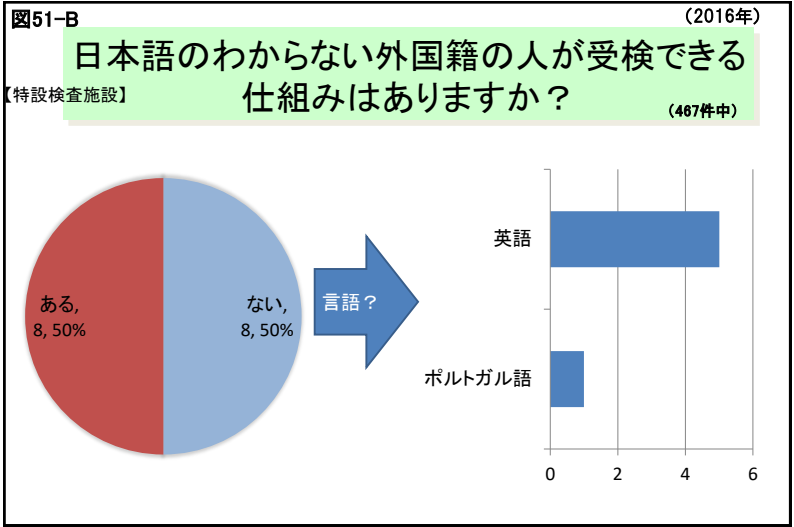












保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？ (n=469)

はい	467件	99.6%
いいえ	2件	0.4%

アンケート送付数 563
回収数 469 83.3%

「はい」と答えた保健所 → 平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。(n=467)

① HIV検査件数

検査数	75,584
うち陽性数	221
陽性率	0.29%

② 陽性経験数

陽性者があった保健所	111件	23.8%
陽性者がなかった保健所	355件	76.2%
回答なし	1件	

③ 年間検査件数別保健所数

年間検査数	保健所数	検査件数	陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
50件未満	186 39.8%	3,814 5.0%	9	0.24%	4.3%	8
50-99件	87 18.6%	6,174 8.2%	16	0.26%	17.2%	15
100-199件	89 19.1%	12,696 16.8%	34	0.27%	29.2%	26
200-499件	69 14.8%	20,573 27.2%	53	0.26%	49.3%	34
500-999件	25 5.4%	17,621 23.3%	50	0.28%	76.0%	19
1000件以上	9 1.9%	14,706 19.5%	59	0.40%	100.0%	9
回答なし	2 0.4%					

④ HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人	陽性で聞きに来なかった	検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
全体	1,813 2.4%	12 5.4%	75,584	221	75,363	1,825
即日検査のみ	323 1.1%	4 4.7%	28,257	85	28,172	327
即日検査+通常検査	657 2.4%	4 4.9%	27,991	81	27,910	661
通常検査のみ	833 4.3%	4 7.3%	19,336	55	19,281	837

⑤ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	全体	陽性経験保健所	(n=111)
ある	274 58.7%	92 82.9%	
ない	180 38.5%	19 17.1%	

⑥ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数 162人 77.5%

⑦ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数 121人 (54.8%)

2. 貴保健所で行っているHIV検査相談事業の内容について教えてください。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

行っている	415件	88.9%
行っていない	52件	11.1%

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください 複数回答

梅毒	319	76.9%
クラミジア抗体	115	27.7%
クラミジア抗原	146	35.2%
淋菌	50	12.0%
B型肝炎	308	74.2%
C型肝炎	301	72.5%
HTLV-1	13	3.1%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入 (n=467)

検査方法	件数	割合	実施曜日	実施時間
1 通常検査のみ	144	30.8%	通常検査を行っている	254
2 即日検査のみ	213	45.6%	即日検査を行っている	323
3 通常+即日	110	23.6%		110
A 平日昼のみ検査	227	48.6%		467
B 平日夜間検査	174	37.3%		
C 土日検査	66	14.1%		
1A 通常のみ+平日昼のみ	112	24.0%		
1B 通常のみ+夜間も行っている	31	6.6%		
1C 通常+土日検査も	1	0.2%		
2A 即日のみ+平日昼のみ	92	19.7%		
2B 即日のみ+夜間も行っている	91	19.5%		
2C 即日+土日検査も	30	6.4%		
3A 通常+即日・平日昼のみ	23	4.9%		
3B 通常+即日・夜間も行っている	52	11.1%		
3C 通常+即日・土日検査も	35	7.5%		

保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

③ ア通常検査の場合

A. 予約制ですか？ (n=254) 複数回答

はい	151	59.4%
いいえ	104	40.9%

B. 1回あたり上限はありますか？ (n=254) 複数回答

はい	117	46.1%
いいえ	135	53.1%
回答なし	3	1.2%

上限がある場合、平均人数と分布

	通常	即日
平均数	10人	12人
10人未満	74件	149件
10-19人	24件	46件
20-29人	10件	17件
30-39人	1件	14件
40-49人	2件	5件
50人以上	2件	8件

C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	245	96.5%
いいえ	4	1.6%
回答なし	5	2.0%

D. 結果返しは？

1週間後まで	177	69.7%
1週から2週後まで	77	30.3%
回答なし	4	1.6%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

自保健所	36	14.2%
他保健所	31	12.2%
衛生研究所	101	39.8%
外部委託	90	35.4%

F. 確認検査の実施施設は？

自保健所	8	3.1%
他保健所	13	5.1%
衛生研究所	173	68.1%
外部委託	63	24.8%

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	20	7.9%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	9	3.5%
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	211	83.1%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	162	/
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	39	
その他	10	3.9%

保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

④ イ即日検査の場合 (n=323)

A. 予約制ですか？

はい	265	82.0%
いいえ	59	18.3%

B. 1回あたり上限はありますか？

はい	242	74.9%
いいえ	79	24.5%
回答なし	2	0.6%

上限がある場合、平均人数と分布

	即日
平均数	12人
10人未満	149件
10-19人	46件
20-29人	17件
30-39人	14件
40-49人	5件
50人以上	8件

C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	318	98.5%
いいえ	3	0.9%
回答なし	2	0.6%

D. 迅速検査で陽性(要確認検査)となった場合の結果返しは？

1週間後	164	50.8%
2週間後	151	46.7%
2週間以降	1	0.3%
回答なし	7	2.2%

E. 確認検査 実施施設は？

自保健所	18	5.6%
他保健所	9	2.8%
衛生研究所	213	65.9%
外部委託	97	30.0%

F. 確認検査用 検体は？

迅速検査残血液	181	56.0%
確認検査用再採血	141	43.7%
迅速検査用と同時	71	22.0%
結果通知後	70	21.7%
未記入	11	3.4%

(n=323)

※10か所の保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

⑤ 確認検査の方法は？ (通常、即日共通) (n=467)

WB法のみ	145	31.0%
2次スクリーニング+WB法	127	27.2%
WB法+NAT法	111	23.8%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	47	10.1%
その他	16	3.4%

⑥ 受検者について把握している内容は？ (n=467)

性別	459	98.3%
年齢	329	70.4%
年代	212	45.4%
年齢・年代	456	97.6%
居住地域	208	44.5%
受検動機	400	85.7%
受検経験	336	71.9%
感染リスク	339	72.6%
性的指向	200	42.8%
感染機会の時期	385	82.4%
情報源	304	65.1%
その他	48	10.3%

上記の内容について事業改善等に活用していますか。 (n=467)

活用している	273	58.5%
活用していない	153	32.8%

保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

⑦ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

(n=467)

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
記入数	457		293		343		411	
医師	183	40.0%	243	82.9%	206	60.1%	404	98.3%
保健師	330	72.2%	242	82.6%	270	78.7%	334	81.3%
看護師	37	8.1%	15	5.1%	19	5.5%	19	4.6%
その他(カウンセラー等)	63	13.8%	38	13.0%	36	10.5%	110	26.8%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

ある	245件	52.5%
ない	31件	6.6%
回答なし	191件	40.9%

B. 検査結果の説明について

(n=467) 複数回答

口頭のみ	191件	40.9%
結果の書面を渡す	215件	46.0%
基本は口頭、希望者には書面を渡す	20件	4.3%
証明書発行	8件	1.7%
書面を一緒に見ながら説明	7件	1.3%
紹介状を渡す	6件	1.1%
パンフレットを渡す	5件	1.5%
その他	3件	
回答なし	27件	5.8%

C. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

ある	332件	71.1%
ない	122件	26.1%
回答なし	13件	2.8%

D. 陽性者への説明資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
	件数	割合	件数	割合
ある	386件	82.7%	99件	89.2%
ない	69件	14.8%	9件	8.1%
回答なし	12件	2.6%	3件	2.7%

E. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
	件数	割合	件数	割合
ある	400件	85.7%	107件	96.4%
ない	47件	10.1%	2件	1.8%
回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

F. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=467) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
	件数	割合	件数	割合
経験あり	51件	10.9%	25件	22.5%
実績はないが可能	179件	38.3%	24件	21.6%
できない	191件	40.9%	45件	40.5%
検討中	12件	2.6%	6件	5.4%
その他	20件	4.3%	8件	7.2%
回答なし	16件	3.4%	3件	2.7%

G. 確認検査で陽性の場合には感染症発生動向調査の届出を行いますか (n=467) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
	件数	割合	件数	割合
必ずおこなう	231件	49.5%	61件	55.0%
ほぼおこなう	37件	7.9%	12件	10.8%
おこなわない	19件	4.1%	6件	5.4%
医療機関に依頼する	164件	35.1%	33件	29.7%
回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっています。(n=467)

行っている	441	94.4%
行っていない	17	3.6%
回答なし	9	2.8%

対象は？

(n=441)

全員に	364	82.5%
一部に	77	17.5%

場面は？

検査前に	67	15.2%
結果説明後に	109	24.7%
両方に	249	56.5%

具体的手法は？

パンフレット、結果説明書を活用して	130件
カウンセリング	40件
予防法を中心に説明	45件
口頭で説明、またはパンフレット配布	39件
感染リスク(経路)の説明および予防法について	31件
説明およびコンドーム等配布	19件
リスク行動の振り返り	29件
アンケート、クイズの実施	13件

I. 対応困難者の経験はありますか？

ある	182件	39.0%
ない	278件	59.5%
不明	7件	1.5%

対応困難者の紹介先はありますか？

(n=467)

ある	102件	21.8%
ない	326件	69.8%
不明	39件	8.4%

「ある」と答えた保健所→紹介先は？(複数回答あり)

(n=102)

医療機関	63件	61.8%
NGO等	24件	23.5%
その他	27件	26.5%

J. 血液暴露事故が受検動機(受検者(医療従事者)はい) (n=467)

いない	307件	65.7%
いる	139件	29.8%
	H27	H28
→人数 5名以下	55件	86件
→人数 10名以下	4件	5件
→人数 11名以上	5件	3件
状況 針刺し事故		60件
血液に触れた		23件
不安		12件

K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？ (n=467)

通常通り行う	364件	77.9%
受け付けない	1件	0.2%
特別な配慮をする	87件	18.6%
→陽性時には親にも説明	29件	33.3%
→保護者の同意を得られているか	21件	24.1%
→丁寧なカウンセリング	9件	10.3%
→年齢により対応を考える	16件	18.4%

L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？

(n=467)

ない	292件	62.5%
ある	153件	32.8%
→英語	99件	64.7%
→ポルトガル語	40件	26.1%
→スペイン語	37件	24.2%
→中国語	46件	30.1%
→韓国語、朝鮮語	36件	23.5%
→タガログ語、フィリピン語	17件	11.1%
→タイ語	19件	12.4%
→ベトナム語	7件	4.6%
→ロシア語	3件	2.0%

(n=153)

保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

- ⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

ある	438件	93.8%
ない	24件	5.1%
回答なし	5件	1.1%

- ⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思 (n=467)

はい	372件	79.7%
いいえ	1件	0.2%
不明	88件	18.8%

- ⑩ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

なかった	463	99.1%
あった	2	0.4%
⇒HIVについてあった	0	0.0%
⇒STIについてあった	2	0.4%

- ⑪ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

1. 平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。

平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。

アンケート送付数 21
回収数 17 81.0%

① HIV検査件数 (n=17)

検査数	22,183
うち陽性数	138
陽性率	0.62%

② 陽性経験数

陽性者があった施設	13件	76.5%
陽性者がなかった施設	4件	23.5%

年間検査数	施設数	検査件数	陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
50件未満	0	0.0%	0			0
50-99件	1	5.9%	72	0.3%	0.00%	0
100-199件	2	11.8%	242	1.1%	0.41%	1
200-499件	4	23.5%	1,668	7.5%	0.30%	2
500-999件	5	29.4%	3,923	17.7%	0.28%	5
1000件以上	5	29.4%	16,278	73.4%	0.74%	5

③ HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人		陽性で聞きに来なかった人		検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
	人数	%	人数	%				
全体	461	2.1%	10	7.2%	22,183	138	22,045	471
即日検査のみ	1	0.0%	3	7.3%	8,761	41	8,720	4
即日検査+通常検査	47	1.5%	1	7.1%	3,147	14	3,133	48
通常検査のみ	413	4.1%	6	7.2%	10,275	83	10,192	419

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	全体		陽性経験施設		(n=13)
	人数	%	人数	%	
ある	13	76.5%	11件	84.6%	
ない	4	23.5%	2件	15.4%	

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者 108人 84%

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数 119人 (86.2%)

2. 貴施設で行っているHIV検査相談事業の内容について教えてください。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

行っている	8件	47.1%
行っていない	9件	52.9%

「行っている」と答えた施設 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください (n=8) 複数回答

梅毒	6	75.0%
クラミジア抗体	0	0.0%
クラミジア抗原	1	12.5%
淋菌	2	25.0%
B型肝炎	6	75.0%
C型肝炎	1	12.5%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入 (n=17)

1 通常検査のみ	2	12%	通常検査を行っている	4	4
2 即日検査のみ	13	76%	即日検査を行っている	15	15
3 通常+即日	2	12%			
A 平日昼のみ検査	1	6%			
B 平日夜間検査	3	18%			
C 土日検査	13	76%			
1A 通常のみ+平日昼のみ	0	0%			
1B 通常のみ+夜間も行っている	0	0%			
1C 通常+土日検査	2	12%			
2A 即日のみ+平日昼のみ	1	6%			
2B 即日のみ+夜間も行っている	3	18%			
2C 即日のみ+土日検査	9	53%			
3A 通常+即日・平日昼のみ	0	0%			
3B 通常+即日・夜間も行っている	0	0%			
3C 通常+即日・土日検査	2	12%			

③ A通常検査の場合 (n=4)

A. 予約制ですか？

はい	2	50.0%
いいえ	2	50.0%

B. 1回あたり上限はありますか？ (n=4)

はい	2	50.0%
いいえ	2	50.0%

特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

上限がある場合、平均人数と分布

	通常	即日
平均数	43人	55人
10人未満		
10-19人		1件
20-29人	1件	2件
30-39人		1件
40-49人		1件
50人以上	1件	9件

C. プレカウンセリングを行っているか？

(n=4)

はい	4	100.0%
いいえ	0	0.0%

D. 結果返しは？

1週間後まで	4	100.0%
1週から2週後まで	0	0.0%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

自施設	1	25.0%
他施設	3	75.0%

F. 確認検査の実施施設は？

自施設	2	50.0%
他施設	2	50.0%

H. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	1	25.0%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。		
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	3	75.0%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	3	/
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	0	

④ イ即日検査の場合

(n=15)

A. 予約制ですか？

はい	11	73.3%
いいえ	3	20.0%
回答なし	1	6.7%

B. 1回あたり上限はありますか？

はい	12	80.0%
いいえ	2	13.3%
回答なし	1	6.7%

上限がある場合、平均人数と分布

	即日
平均数	55人
10人未満	0件
10-19人	1件
20-29人	2件
30-39人	1件
40-49人	1件
50人以上	7件

C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	13	86.7%
いいえ	0	0.0%
回答なし	1	6.7%

D. 迅速検査で陽性(要確認検査)となった場合の結果返しは？

1週間後	9	60.0%
2週間後	4	26.7%
回答なし	2	13.3%

E. 確認検査 実施施設は？

自施設	4	26.7%
他施設	10	66.7%
未記入	1	6.7%

特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

F. 確認検査用 検体は？

迅速検査残血液	8	53.3%	(n=15)
確認検査用再採血	5	33.3%	
迅速検査用と同時	3	20.0%	
結果通知後	2	13.3%	
未記入	2	13.3%	

⑤ 確認検査の方法は？（通常、即日共通） (n=17)

WB法のみ	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	7	41.2%
WB法+NAT法	6	35.3%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	3	17.6%
未記入	1	5.9%

⑥ 受検者について把握している内容は？ (n=17)

性別	17	100.0%
年齢	8	47.1%
年代	12	70.6%
年齢・年代	17	70.6%
居住地域	12	82.4%
受検動機	14	82.4%
受検経験	17	100.0%
感染リスク	15	88.2%
性的指向	16	94.1%
感染機会の時期	14	82.4%
情報源	14	82.4%
その他	2	11.8%

上記の内容について事業改善等に活用していますか。 (n=17)

活用している	15	88.2%
活用していない	1	5.9%

⑦ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
記入数	17		13		11		12	
医師	10	58.8%	12	92.3%	10	90.9%	11	91.7%
保健師	3	17.6%	4	30.8%	3	27.3%	4	33.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
その他(カウンセラー等)	6	35.3%	7	53.8%	6	54.5%	8	66.7%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

ある	12件	70.6%	(n=17)
ない	1件	5.9%	
回答なし	4件	23.5%	

B. 検査結果の説明について (n=17) 複数回答

口頭のみ	7件	41.2%
結果の書面を渡す	9件	52.9%
回答なし	1件	5.9%

C. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

ある	15件	88.2%
ない	1件	5.9%
回答なし	1件	5.9%

D. 陽性者への説明資料はありますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
ある	15件	88.2%	12件	92.3%
ない	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.9%	1件	7.7%

E. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
ある	15件	88.2%	12	92.3%
ない	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.9%	1件	7.7%

F. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=17) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=13)	
経験あり	5件	29.4%	4件	30.8%
実績はないが可能	5件	29.4%	4件	30.8%
できない	3件	17.6%	2件	15.4%
検討中	1件	0.0%	0件	0.0%
その他	3件	17.6%	2件	15.4%
回答なし	4件	23.5%	3件	23.1%

特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

G. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
必ずおこなう	9件	52.9%	7件	53.8%
ほぼおこなう	0件	0.0%	0件	0.0%
おこなわない	1件	5.9%	1件	7.7%
医療機関に依頼する	5件	29.4%	4件	30.8%
回答なし	2件	11.8%	1件	7.7%

H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか (n=17)

行っている	16	94.1%
行っていない	0	0.0%
回答なし	1	6.7%

対象は？

(n=16)

全員に	10	62.5%
一部に	6	37.5%

場面は？

検査前に	3	18.8%
結果説明後に	10	62.5%
両方に	6	37.5%

具体的手法は？

感染ルートの確認および予防法について	3
カウンセリング	6
今までの行動を振り返り、行動変容を促す	2
パンフレット、結果説明書を活用して	2
特にMSMに対して	1

I. 対応困難者の経験はありますか？

(n=17)

ある	12件	70.6%
ない	3件	17.6%
回答なし	2件	11.8%

対応困難者の紹介先はありますか？

(n=17)

ある	4件	23.5%
ない	8件	47.1%
回答なし	5件	29.4%

「ある」と答えた施設→紹介先は？(複数回答あり)

(n=4)

医療機関	0件	0.0%
NGO等	4件	100.0%

J. 血液暴露事故が受検動機(医療従事者)はいま (n=17)

いない	8件	47.1%
いる	7件	41.2%
	H27	H28
→人数 5名以下	2件	2件
→人数 10名以下	1件	1件
→人数 11名以上	2件	3件
状況 血液に触れた		1件
統計をとっていない		2件

K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか (n=17)

通常通り行う	10件	58.8%
受け付けない	0件	0.0%
特別な配慮をする	6件	35.3%
→陽性時には親にも説明	1件	16.7%
→本人との相談により判断	3件	50.0%
→結果により検討	2件	33.3%

L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？

(n=17)

ない	8件	47.1%
ある	8件	47.1%
→英語	5件	62.5%
→ポルトガル語	1件	12.5%

(n=8)

特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

- ⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはあり (n=17)

ある	17件	100.0%
ない	0件	0.0%

- ⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

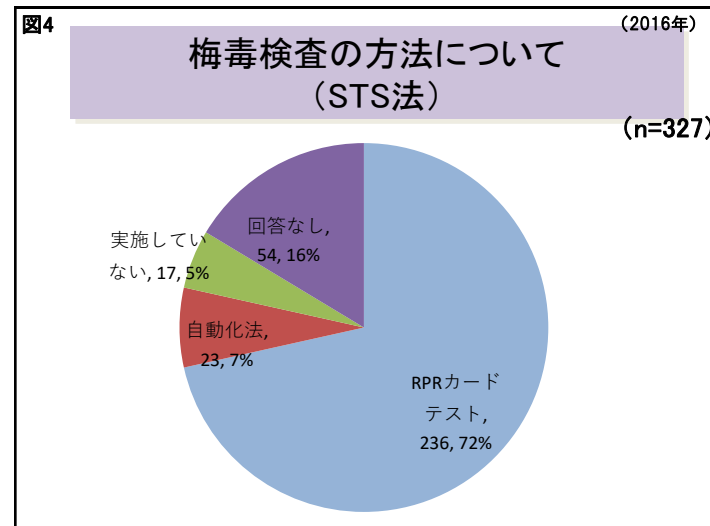
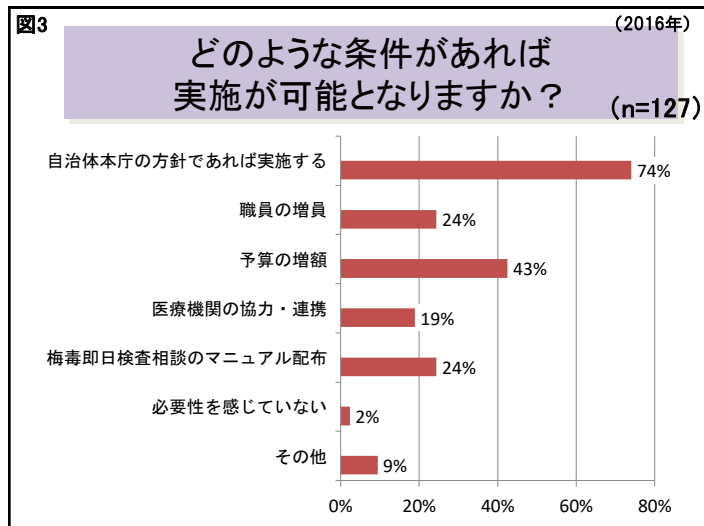
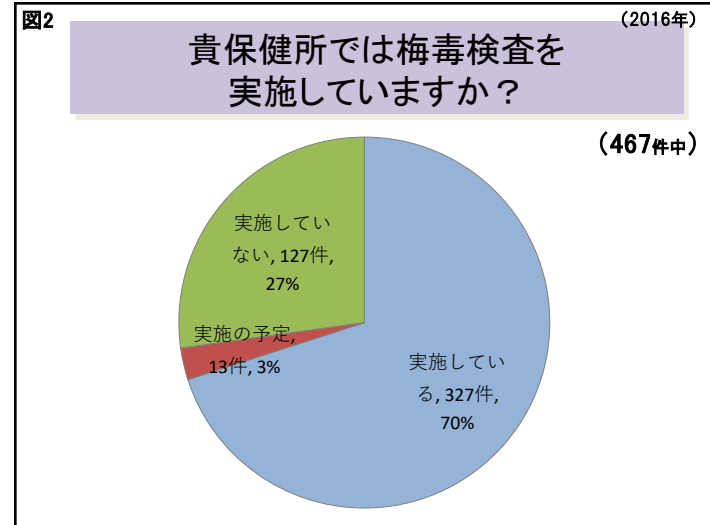
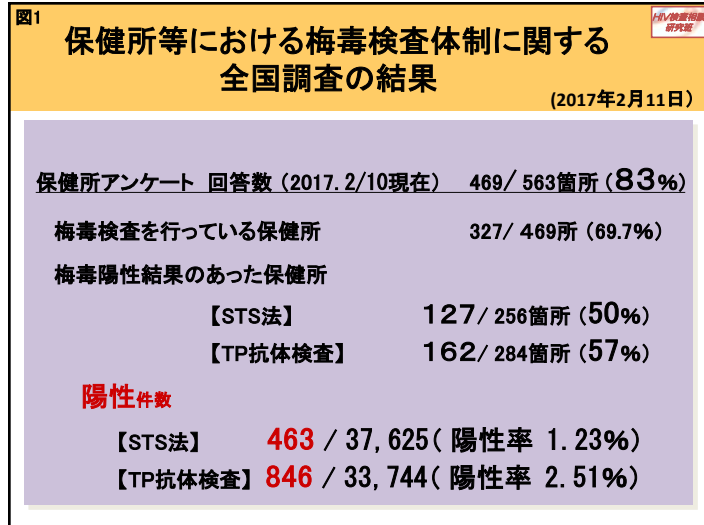
思う	17件	100.0%
思わない	0件	0.0%

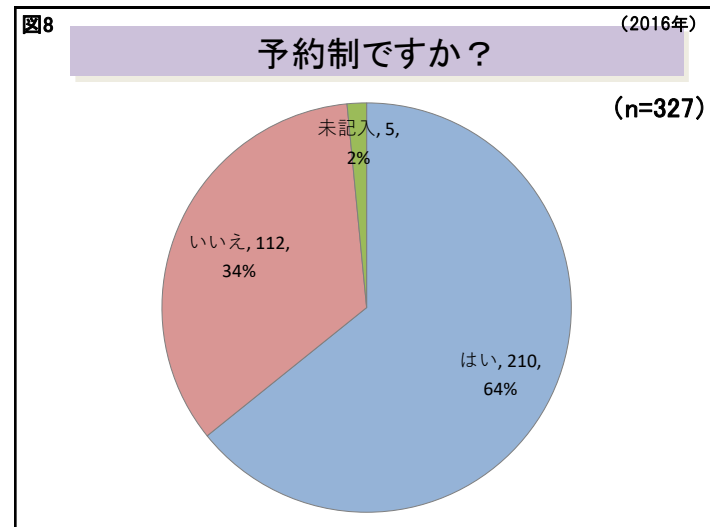
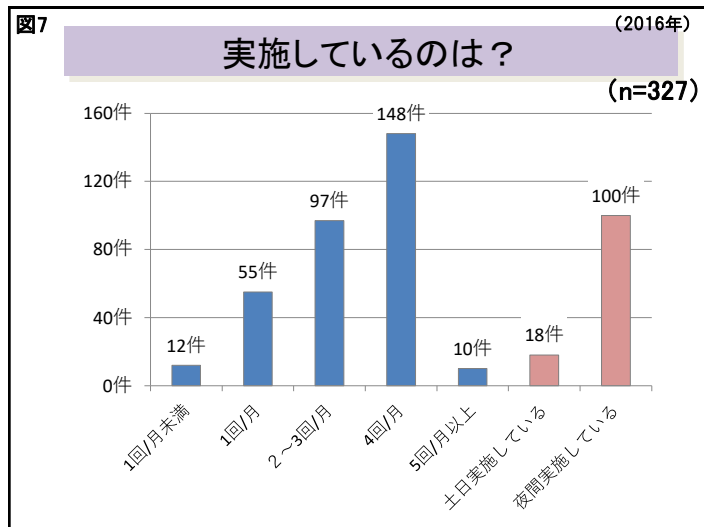
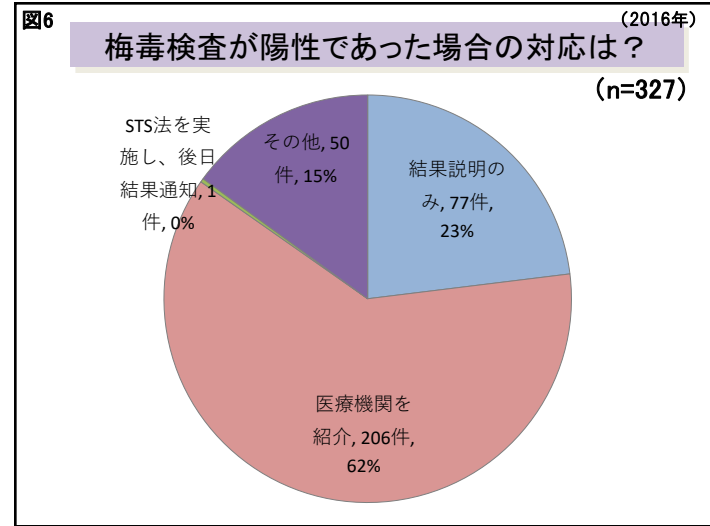
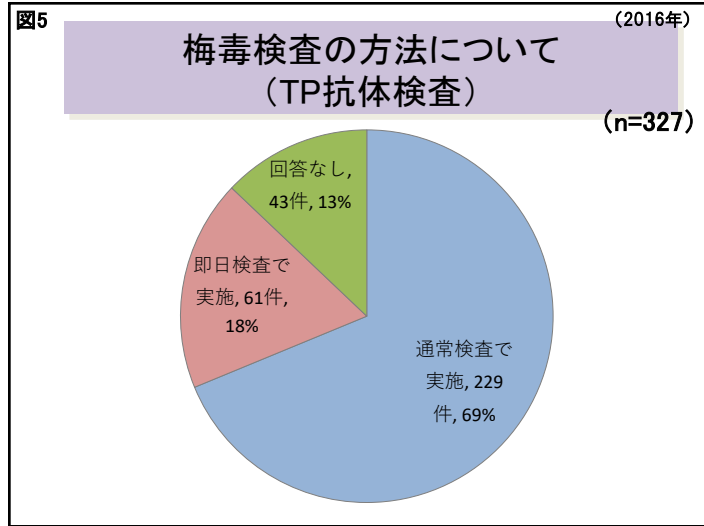
- ⑩ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて (n=17)
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

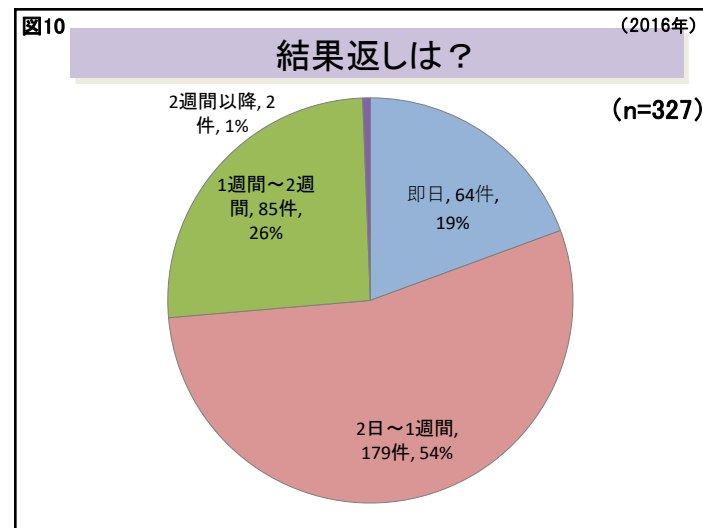
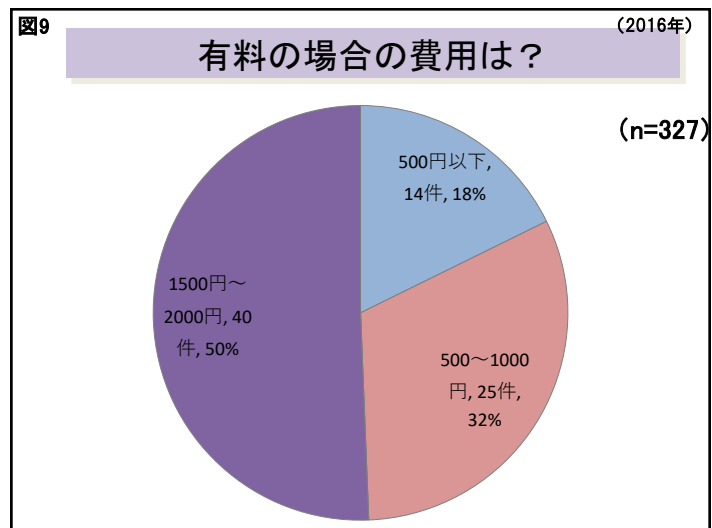
なかった	16件	94.1%
HIVについてあった	0件	0.0%
STIIについてあった	1件	5.9%

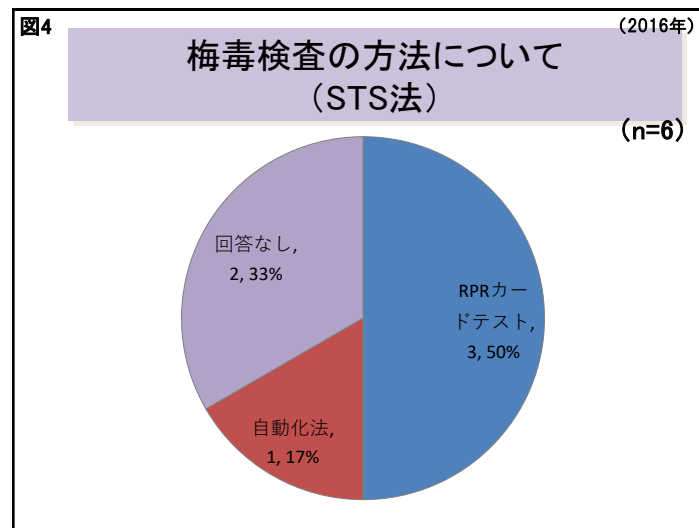
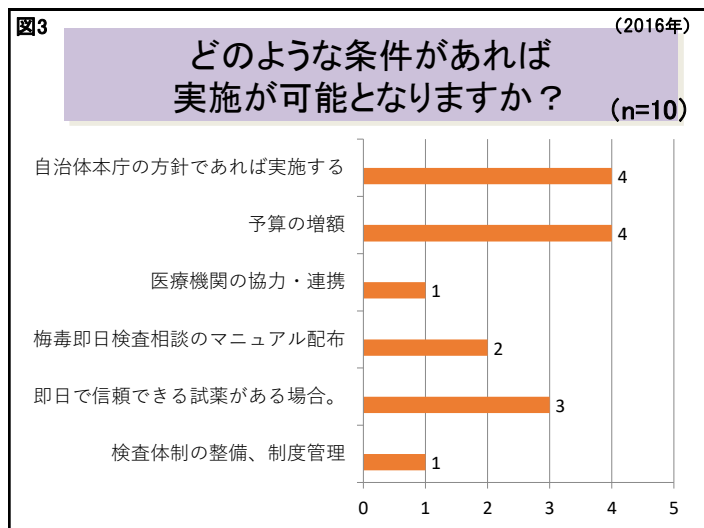
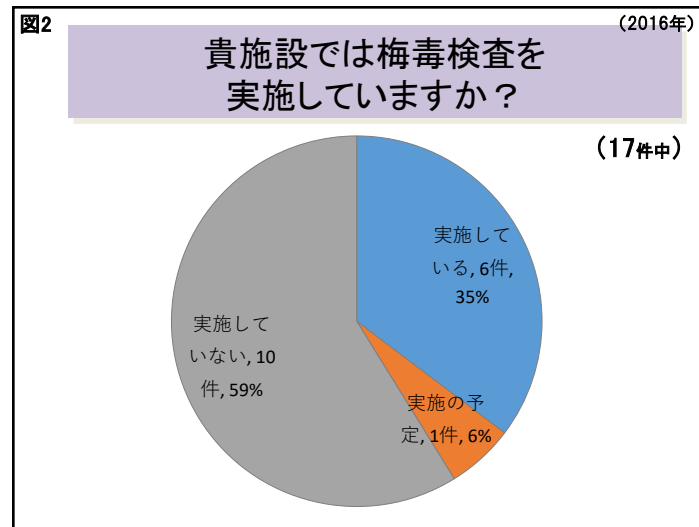
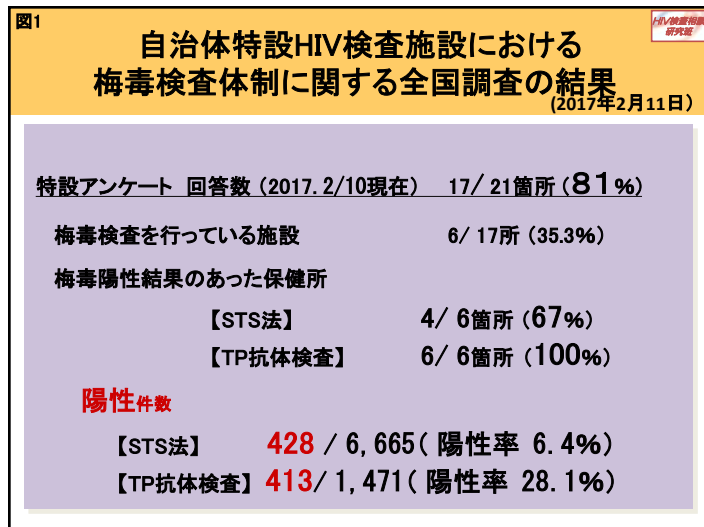
- ⑪ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

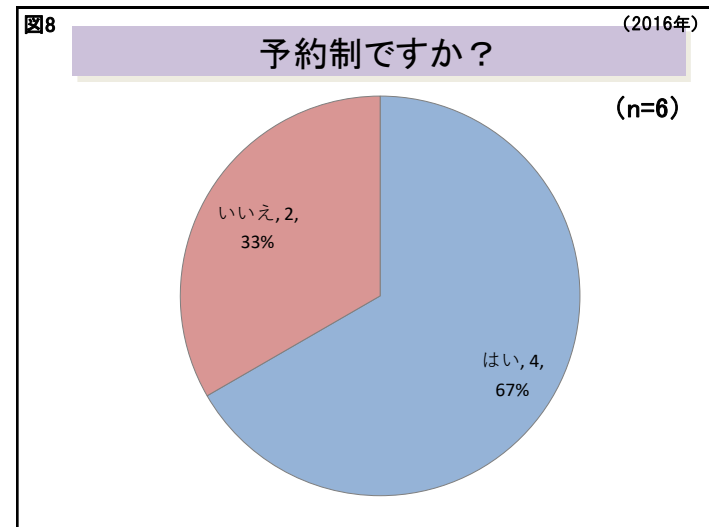
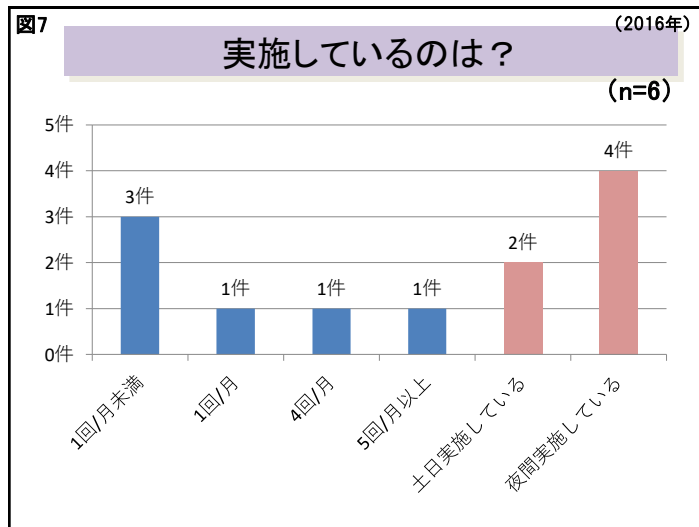
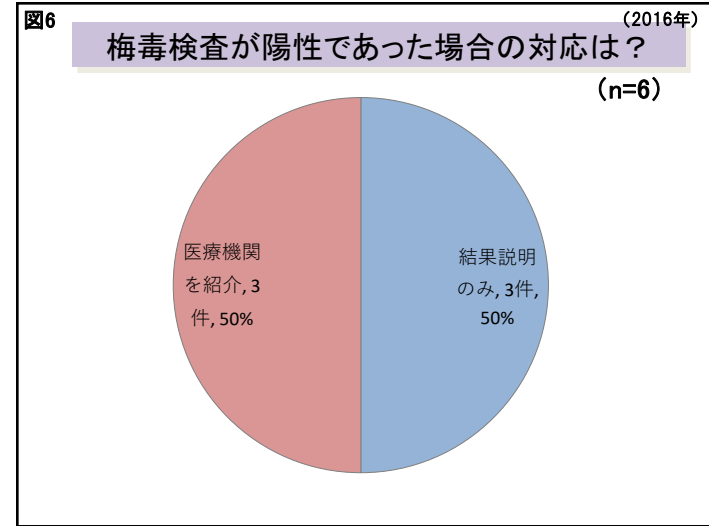
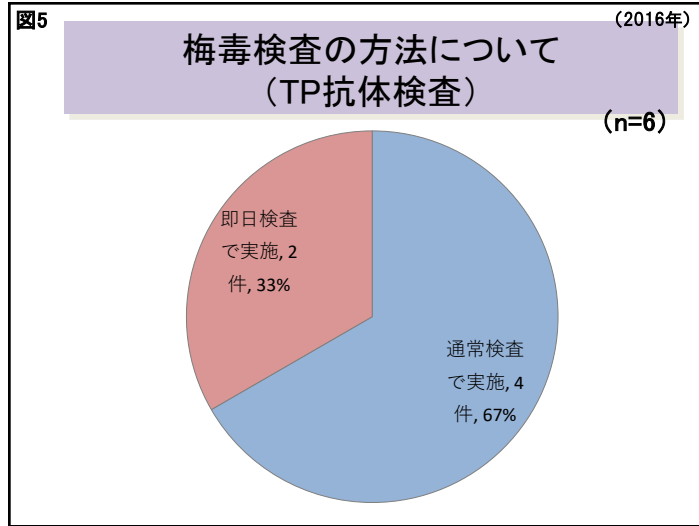
・人材不足(看護師)

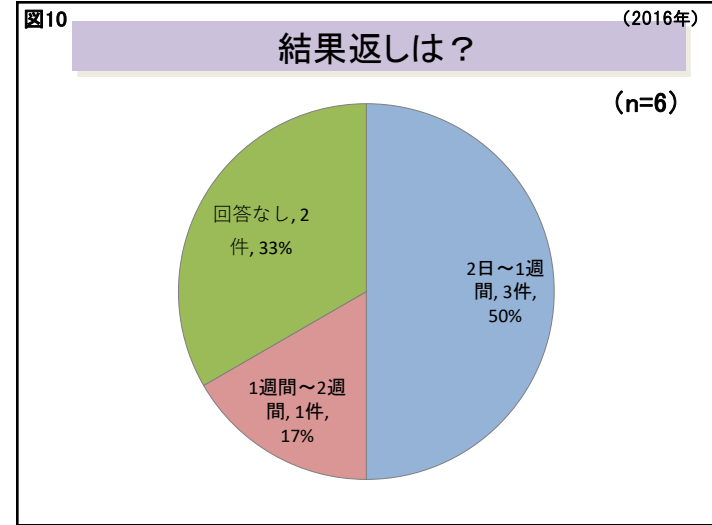
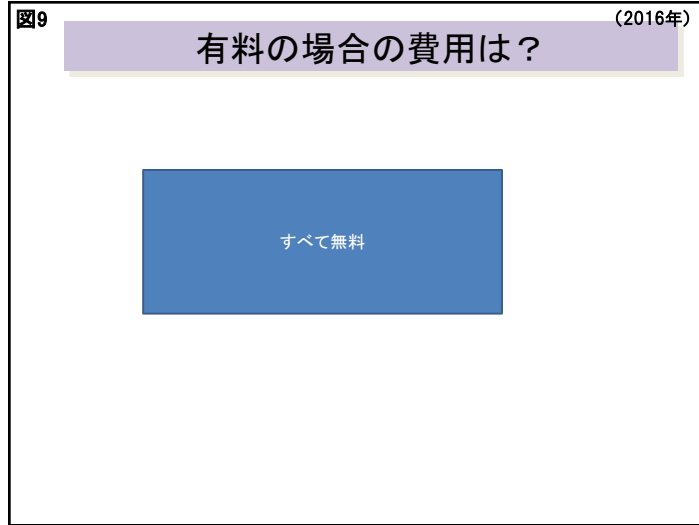












保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

1. (1) 貴保健所では梅毒検査を実施していますか？ (n=469)

実施している	327件	69.7%
実施の予定	13件	2.8%
実施していない	127件	27.1%

アンケート送付数 563
回収数 469
83.3%

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？(複数回答可) (n=127)

自治体本庁の方針であれば実施する	94	74.0%
職員の増員	31	24.4%
予算の増額	54	42.5%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	24	18.9%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	31	24.4%
必要性を感じていない	3	2.4%
その他	12	9.4%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ (n=327)

2. (1) どのように実施していますか？(複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる(無料)	275	84.1%
HIV検査と一緒に受けられる(有料)	44	13.5%
梅毒検査のみで受けられる(無料)	110	33.6%
梅毒検査のみで受けられる(有料)	47	14.4%
回答なし	3	0.9%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】

RPRカードテスト	236	72.2%
自動化法	23	7.0%
実施していない	17	5.2%
回答なし	54	16.5%
検査数	37,625	
うち陽性数	463	
陽性率	1.2%	

(n=327)

陽性者があった保健所	127件	38.8%
陽性者がなかった保健所	131件	40.1%

【TP抗体検査】

通常検査で実施	229件	70.0%
即日検査で実施	61件	18.7%
回答なし	43件	
検査数	33,744	
うち陽性数	846件	
陽性率	2.51%	

(n=327)

通常+即日 6件

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？

(n=327)

結果説明のみ	77件	23.5%
医療機関を紹介	206件	63.0%
STS法を実施し、後日結果通知	1件	0.3%
その他	50件	15.3%

2. (4) 検査時間帯は？

(n=327)

1回 / 月末満	12件	3.7%
1回 / 月	55件	16.8%
2~3回 / 月	97件	29.7%
4回 / 月	148件	45.3%
5回 / 月以上	10件	3.1%
土日実施している	18件	5.5%
夜間実施している	100件	30.6%

2. (5) 予約制ですか？

(n=327)

はい	210	64.2%
いいえ	112	34.3%
未記入	5	1.5%

保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

2. (6) 有料の場合の費用は？

有効回答: 79

500円以下	14件	17.7%
500～1000円	25件	31.6%
1000～1500円	0件	0.0%
1500円～2000円	40件	50.6%

2. (7) 結果返しは？

(n=327)

即日	64件	19.6%
2日～1週間	179件	54.7%
1週間～2週間	85件	26.0%
2週間以降	2件	0.6%

保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

3. 問題点、課題等

検査の2週間後に受検者から電話してもらうことで、性感染症検査の告知を行っているが、H28.1月～12月の間では42%が未告知であり、性感染症検査の結果が伝わらない。
梅毒検査相談担当者のスキルアップ
H29.1月から月1回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査(IC法)を追加して、2項目同時検査に変更実施する。梅毒のIC法は補助金(特定感染症等事業)の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見および梅毒検査を実施していくため、補助金対象にしていただきたい。
受検者が少ない、検査の周知が課題。 匿名の検査であるため、検査陽性者の受診やその経過まではフォローできない。匿名での検査であるため、検査陽性者からの求めに応じて医療機関の紹介をすること等は可能だが、陽性者が実際に受診をしたか、およびその治療経過等は把握することができない。治療中断者に対する受診勧奨等も不可。
結果を聞きに来ない人がいること。
治療終了後に検査を受け、陽性になった場合(RPRも)判断が困難である。1回だけの検査では、特に20代女性をターゲットにした予防啓発の充実が課題。(感染予防、検査の必要性等、疾病に関する情報)
HIV検査と同時実施のため匿名となっている。陽性者が結果説明に来所しない場合のフォローが難しい。
自覚症状等ある場合には予約時点で直接医療受診を勧めている。
即日検査でないため、検査結果の未返却が生じやすい。
外国語の対応がパンフレット等を介してしかできない。
特にありません。医療機関でSTI検査を無料で実施できる制度があれば、潜在患者も広く救い上げることができるのではないかと思います。
結果を聞きに来られない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や、予防行動につなげられない可能性がある。
当所ではHIV検査を即日検査で実施している。その際に梅毒検査の結果は1週間後に伝えるため、梅毒の検査結果を聞きに来ないものがある。
HIV検査(迅速)とのかねあい
匿名実施のため、受検者から連絡がない場合、結果も伝えられない。
後日結果をお電話でお伝えするため電話のない受検者に結果を伝えられないこと。
行政検査のため無料、匿名検査ではあるが予約制である。
検査のアクセスのしやすさで考えると保健所での検査は有益であるか。今のところは医療機関の検査でよいと考える。
HIV同様、相談者が徐々に減少している。
実際の症状、治療の状況など情報、知識が少ないので一般的な話ができていない。
梅毒に特化した説明パンフレット等があれば活用したい。
現行のHIV、HBs抗体、HCV抗体検査同様、保健所で実施するのであれば、梅毒検査も匿名可、無料検査とすることが好ましく、相談する立場からは検査を受けやすくなると思うが、陽性の場合は治療が必要となり、保健所で検査実施後、医療機関へも受診する必要があり、受検者の負担は逆に大きくなるのではないか。
臨床検査技師が1名配置となっており、病休等で不在となった場合、検査業務を休止しなければならない。
梅毒紹介時に病院先の選定に苦慮。診療を受けてくれる病院が少ない。

特設検査相談施設における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

1. (1) 貴施設では梅毒検査を実施していますか？ (n=17)

実施している	6件	35.3%
実施の予定	1件	5.9%
実施していない	10件	58.8%

アンケート送付数 21
回収数 17
81.0%

1. (2) どのような条件があれば即日検査が可能となりますか？(複数回答可) (n=10)

自治体本庁の方針であれば実施する	4	40.0%
職員の増員	0	0.0%
予算の増額	4	40.0%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	1	10.0%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	2	20.0%
必要性を感じていない	0	0.0%
即日で信頼できる試薬がある場合。	3	30.0%
検査体制の整備、制度管理	1	10.0%
HIV即日検査イベントと同時に行いたい、 即日に結果を返すことができない	1	10.0%

「梅毒検査を行っている」と答えた施設のみ (n=6)

2. (1) どのように実施していますか？(複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる(無料)	6	100.0%
HIV検査と一緒に受けられる(有料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる(無料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる(有料)	0	0.0%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】 (n=6)

RPRカードテスト	3	50.0%
自動化法	1	16.7%
実施していない		0.0%
回答なし	2	33.3%
検査数	6,665	
うち陽性数	428	
陽性率	6.4%	

【TP抗体検査】 (n=6)

通常検査で実施	4件	66.7%
即日検査で実施	2件	33.3%
回答なし	0件	
検査数	1,471	
うち陽性数	413件	
陽性率	28.1%	

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？ (n=6)

結果説明のみ	3件	50.0%
医療機関を紹介	3件	50.0%
STS法を実施し、後日結果通知	0件	0.0%

2. (4) 検査時間帯は？ (n=6)

1回 / 月末満	3件	50.0%
1回 / 月	1件	16.7%
2~3回 / 月	0件	0.0%
4回 / 月	1件	16.7%
5回 / 月以上	1件	16.7%
土日実施している	2件	33.3%
夜間実施している	4件	66.7%

2. (5) 予約制ですか？ (n=6)

はい	4	66.7%
いいえ	2	33.3%

2. (6) 有料の場合の費用は？ 6件とも無料

2. (7) 結果返しは？ (n=6) 複数回答あり

2日~1週間	3件	50.0%
1週間~2週間	1件	16.7%
回答なし	2件	33.3%

特設検査相談施設における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

3. 問題点、課題等

看護師不足
HIV検査は即日検査を行っており、梅毒検査の結果が出る時間的な差がある。梅毒の即日検査は制度について課題があり、導入は検討していない。
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
H29年4月から月に2回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査(IC法)を追加して2項目同時検査に変更、実施予定。梅毒のIC法は補助金(特定感染症検査等事業)の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見およびHIV受検促進のために、需要のある即日検査で梅毒検査を実施していけるよう、補助金対象にしていきたい。
梅毒の診断や治療を受けていないが、RPR(-)TPHA(+))という場合がある。風邪等で抗生剤を処方された結果、RPRが陰性化した可能性が想定される。

平成 29 年 1 月 4 日

各 保 健 所 長 様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に
関する研究

研究代表者 市川 誠一 (人間環境大学)

研究分担者 今井 光信 (田園調布学園大学)

HIV 検査と梅毒検査に関するアンケートのお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

昨年度実施しました、「保健所における HIV 検査体制に関する全国調査」の際には、大変お忙しい中にも関わらず、ご協力を頂き誠にありがとうございました。アンケート調査結果につきましては、全国保健所長会のサイトに掲載させて頂きましたのでご一読頂ければ幸いです。

本年度も上記研究班の研究事業として、アンケート調査を行うことになりました。年度末で大変お忙しいところ恐縮ではありますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

別紙のアンケート用紙にご回答頂けたら、平成 29 年 1 月 20 日 (金) までに、返信用封筒にてご返信下さいますようお願い致します。一つの保健所で複数の HIV 検査相談施設 (保健所支所、保健センター等) を管轄している場合には大変申し訳ありませんが、アンケート用紙をコピーの上、各施設単位でアンケートのご回答をしていただけますようお願い申し上げます。

記

- 1 調査目的 保健所における HIV 検査と梅毒検査 (HIV 検査と同時に行う他の性感染症検査を含む) 体制および結果通知に関する現状を調査する。
- 2 調査票回答者 保健所長 あるいは HIV 検査相談事業担当者
- 3 調査票回答期限 平成 29 年 1 月 20 日 (金)
- 4 調査票回答方法
返信用封筒による郵送
宛先 〒215-8542 川崎市麻生区東百合ヶ丘 3-4-1
田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 今井光信

(本調査に関する問い合わせ先)

下記メールにより今井光信宛にお願い致します。

Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

保健所における HIV 検査・相談体制に関する調査

* アンケートの集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の保健所が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

保健所名： _____ 所属： _____

連絡担当者名： _____ 職種： 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先： TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 貴保健所では HIV 検査相談を行っていますか？ (はい ・ いいえ)

「はい」と答えた保健所 → 平成 28 年 1～12 月の実施状況をお教え下さい。

① HIV 検査件数： 検査数 _____ 件 スクリーニング検査で陽性 _____ 件 確認検査陽性 _____ 件

② HIV 検査の結果を聞きにこなかった受検者数： _____ 件

③ ②の中で、HIV 検査が陽性で結果を聞きにこなかった数： _____ 件

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？ (ある ・ ない)

「ある」と答えた保健所 → 具体的に教えて下さい(_____)

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数： _____ 件

⑥ 確認検査陽性で、保健所が感染症発生動向調査の届出を行った HIV 感染者数 _____ 件

2. 貴保健所で行っている HIV 検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV 検査相談を行っている曜日と時間をご記入下さい。

(例) (通常(即日)(定期)イベント)検査：(火 曜日・(月)年) 4 回 受付時間： 13 : 00 ~ 15 : 00

(通常・即日)(定期・イベント)検査： _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間： _____ : _____ ~ _____ : _____

(通常・即日)(定期・イベント)検査： _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間： _____ : _____ ~ _____ : _____

(通常・即日)(定期・イベント)検査： _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間： _____ : _____ ~ _____ : _____

② HIV 検査事業の中で HIV 検査の際に一緒に受けられる性感染症検査を行っていますか？

(行っていない ・ 行っている → (毎回 ・ イベント(年 回)))

「行っている」と答えた保健所 → 一緒に実施している性感染症検査項目に○をしてください。

(梅毒 ・ クラミジア抗体 ・ クラミジア抗原 ・ 淋菌 ・ B 型肝炎 ・ C 型肝炎 ・ その他 _____)

ア. 通常検査を行っている場合

A. 予約制ですか？ (はい ・ いいえ)

B. 1回あたり上限数がありますか？ (はい → (_____)人 ・ いいえ)

C. 検査前に説明や相談(プレカウンセリング)を行っていますか？ (はい ・ いいえ)

D. 結果返しは？ (1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

E. スクリーニング検査実施施設は？

(自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託(機関名： _____))

F. 確認検査の実施施設は？

(自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託(機関名： _____))

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体について当てはまるものに○を付けてください。

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する。

b. 最初に 2 本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。

c. スクリーニング検査陽性の場合確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。

(採血は？ → スクリーニング+確認検査で 1 本 ・ スクリーニング検査 1 本と確認検査 1 本の計 2 本)

d. その他(_____)

イ. 即日検査を行っている場合

A. 予約制ですか？ (はい ・ いいえ)

B. 1回あたり上限数がありますか？ (はい (_____)人 ・ いいえ)

C. 検査前に説明や相談(プレカウンセリング)を行っていますか？ (はい ・ いいえ)

D. 迅速検査で陽性となった場合の確認検査の結果返しは？ (1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

E. 確認検査の実施施設は？

(自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託 : 機関名))

F. 確認検査用の検体は？

(迅速検査の残血液 ・ 確認検査用に採血 → (迅速検査用と同時 ・ 結果通知後))

③ 確認検査の方法を教えてください(通常検査を行っている場合、即日検査を行っている場合共通)。

(WB 法のみ ・ 2次スクリーニング検査+WB 法 ・ WB 法+核酸増幅検査(NAT)法
2次スクリーニング検査+WB 法+NAT 法 ・ その他())

④ 受検者について把握している内容に○を付けて下さい(複数回答可)。

(性別 ・ 年齢 ・ 年代 ・ 居住地域 ・ 受検の動機 ・ 受検経験 ・ 感染リスク
・ 性的指向 ・ 感染機会の時期 ・ 今回の検査の情報源 ・ その他())

→ 集計結果を事業の改善見直しや予算要求等に活用していますか？ (している ・ していない)

⑤ 結果説明・相談等について教えてください。H28年4月に体制等が変わった場合は変更後をご記入下さい。

A. 結果説明時の1事業実施回当たりの担当者は？

* 該当箇所の□にシ点を付け、合計人数を記入、担当職種に○を付け、職種別の人数をご記入下さい。

□「陰性結果通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「迅速検査陽性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「確認検査陰性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「確認検査陽性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「迅速検査陽性」時の説明体制(例:、医師が結果を説明し、保健師が相談先などを説明)

具体的には？ ()、手渡し資料は？(ある・ない)

□「確認検査陽性」時の説明体制(例:医師が結果と医学的説明、保健師が他の説明、カウンセラーが相談)

(具体的に:)

B 検査結果の説明について (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他)

C. 陽性者への説明事項に関するマニュアルがありますか？ (ある ・ ない)

D. 陽性者への説明資料はありますか？ (ある(具体的に:) ・ ない)

E. 陽性者に手渡す資料はありますか？ (ある(具体的に:) ・ ない)

F 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？

(経験あり ・ 実績はないが可能 ・ できない ・ 検討中 ・ その他)

G. 確認検査で陽性の場合には感染症発生動向調査の届出を行いますか？

(必ず行う ・ ほぼ行う ・ 行わない ・ 紹介先医療機関に依頼する)

→「行わない」or「紹介先医療機関に依頼する」の方(理由:)

H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をしていますか？ (している ・ していない)

「している保健所」→ 対象は？ (全員 ・ 一部)、場面は？(検査前 ・ 結果説明後 ・ 両方)

具体的手法は？ (具体的に:)

I. 対応困難者(不安神経症、リスク行動を繰り返す人等)の経験はありますか？ (ある ・ ない)

対応困難者の紹介先はありますか？ (ある ・ ない)

「ある」と答えた保健所 →(紹介先全てに○: 医療機関(診療科)・ NGO ・ その他)

J. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいましたか？

(いない ・ いる : 受検者数(H27: 名、H28: 名) : 状況)

K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？

(通常通り行う ・ 受け付けない ・ 特別な配慮をする→(具体的に:))

L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？

(ない ・ ある : 対応言語と方法を具体的に())

⑥ ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(hivkensa.com)をご覧になったことはありますか？(はい ・ いいえ)

⑦ 「HIV 検査・相談マップ」は HIV 検査相談事業に役立っていると思いますか？(はい ・ いいえ ・ 不明)

⑧ H28年1月以降、HIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して誤った結果を通知したことはありましたか？

(あった → (HIVについて ・ 性感染症について) ・ なかった)

⑨ HIV 検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありましたら、余白または別紙にご記入下さい。

保健所における梅毒検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は研究班の報告書としてまとめるとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の保健所が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

保健所名： _____ 所属： _____

連絡担当者名： _____ 職種： 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先： TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 全保健所にお伺いします。

- (1) 梅毒検査を実施していますか？ → (実施している・実施の予定・実施していない)
 (2) (1)で梅毒検査を「実施していない」と回答された場合のみ、下記にお答えください。

↓

どのような条件があれば、梅毒検査の実施が可能となるでしょうか？当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 自治体本庁の方針であれば実施する | ② 職員の増員 |
| ③ 予算の増額 | ④ 受検者の定員削減 |
| ⑤ 医療機関の協力・連携 | ⑥ 梅毒検査相談のマニュアル配布 |
| ⑦ 梅毒検査の必要性を感じていない | |
| ⑧ その他 (_____) | |

2. 梅毒検査を実施している保健所にお尋ねします。

- (1) 梅毒検査はどのように実施していますか？
 (HIV 検査と一緒に受けられる (無料・有料) ・梅毒検査のみで受けられる (無料・有料))
- (2) 梅毒検査の方法と1年間(平成28年1-12月)の検査数・陽性数を教えてください。
 (ア) 脂質(カルジオリピン)を抗原とする検査(STS法)
 (RPR カードテスト ・ 自動化法 ・ 実施していない)
 ・STS法検査数 (_____ 件) ・STS法陽性数 (_____ 件)
 (イ) *T. pallidum* を抗原とする検査 (TPHA法、TPPA法、IC法などのTP抗体検査)
 (通常検査で実施 ・ 即日検査で実施)
 ・TP抗体検査検査数 (_____ 件) ・TP抗体検査陽性数 (_____ 件)
- (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？
 (結果説明のみ ・ 医療機関を紹介 ・ STS法を実施し後日結果を通知(即日検査の場合) ・ その他 _____)
- (4) 梅毒検査を行っている曜日と時間をご記入下さい。
 (定期・イベント)検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
 (定期・イベント)検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
 (定期・イベント)検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
- (5) 予約制ですか？ (はい ・ いいえ)
 (6) 有料の場合の費用は？ (_____ 円)
 (7) 結果返しは？ (即日 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ _____ 日後以降)

3. 梅毒検査相談を実施する上で、問題点や課題等がありましたら、ご記入ください。(裏面でも可)

ご協力ありがとうございました。

平成 29 年 1 月 4 日

関係者の皆様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に
関する研究

研究代表者 市川 誠一 (人間環境大学)

研究分担者 今井 光信 (田園調布学園大学)

HIV 検査と梅毒検査に関するアンケートのお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

上記研究班の研究事業として、現在、保健所に対して「保健所における HIV 検査体制に関する全国調査」を実施しております。

つきましては、保健所以外の自治体特設の HIV 検査相談施設に関しましても、保健所アンケートに準じた調査を本年度も実施させていただきたく、大変お忙しいところ恐縮ではありますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

別紙のアンケート用紙にご回答頂けましたら、平成 29 年 1 月 20 日 (金) までに、返信用封筒にてご返信下さいますようお願い致します。

記

- 1 調査目的 自治体特設 HIV 検査相談施設における HIV 検査と梅毒検査 (HIV 検査と同時に他の性感染症検査を含む) 体制および結果通知に関する現状を調査する。
- 2 調査票回答者 自治体特設 HIV 検査相談施設の責任者 あるいは委託元 HIV 検査相談事業の責任者または担当者
- 3 調査票回答期限 平成 29 年 1 月 20 日 (金)
- 4 調査票回答方法
返信用封筒による郵送
宛先 〒215-8542 川崎市麻生区東百合ヶ丘 3-4-1
田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 今井光信

(本調査に関する問い合わせ先)

下記メールにより今井光信宛にお願い致します。

Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

自治体特設 HIV 検査施設における HIV 検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

検査施設名:

連絡担当者名: _____ 職種: 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先: TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 貴施設ではいつから HIV 検査を行っていますか? (_____ 年から)

平成 28 年 1~12 月の実施状況をお教え下さい。

① HIV 検査件数: 検査数 _____ 件 スクリーニング検査で陽性 _____ 件 確認検査陽性 _____ 件

② HIV 検査の結果を聞きにこなかった受検者数: _____ 件

③ ②の中で、HIV 検査が陽性で結果を聞きにこなかった数: _____ 件

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか? (ある ・ ない)

「ある」と答えた施設 → 具体的に教えて下さい(_____)

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数: _____ 件

⑥ 確認検査陽性で、感染症発生動向調査の届出を行った HIV 感染者数 _____ 件

2. 貴施設で行っている HIV 検査事業の内容について教えて下さい。

① HIV 検査を行っている曜日と時間をご記入下さい。

(例) (通常(即日)(定期)イベント) 検査: (火 曜日・(月)年) 4 回 受付時間: 13 : 00 ~ 15 : 00

(通常・即日) (定期・イベント) 検査: _____ 曜日 / (月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____

(通常・即日) (定期・イベント) 検査: _____ 曜日 / (月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____

(通常・即日) (定期・イベント) 検査: _____ 曜日 / (月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____

② HIV 検査事業の中で HIV 検査の際に一緒に受けられる性感染症検査を行っていますか?

(行っていない ・ 行っている → (毎回 ・ イベント (年 回)))

「行っている」と答えた施設 → 一緒に実施している性感染症検査項目に○をしてください。

(梅毒 ・ クラミジア抗体 ・ クラミジア抗原 ・ 淋菌 ・ B 型肝炎 ・ C 型肝炎 ・ その他 _____)

ア. 通常検査を行っている場合

A. 予約制ですか? (はい ・ いいえ)

B. 1 回あたり上限数がありますか? (はい → (_____) 人 ・ いいえ)

C. 検査前に説明や相談(プレカウンセリング)を行っていますか? (はい ・ いいえ)

D. 結果返しは? (1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

E. スクリーニング検査実施施設は?

(自施設 ・ 他施設 (機関名: _____))

F. 確認検査の実施施設は?

(自施設 ・ 他施設 (機関名: _____))

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体について当てはまるものに○を付けてください。

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する。

b. 最初に 2 本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。

c. スクリーニング検査陽性の場合確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。

(採血は? → スクリーニング+確認検査で 1 本 ・ スクリーニング検査 1 本と確認検査 1 本の計 2 本)

d. その他(_____)

イ. 即日検査を行っている場合

A. 予約制ですか? (はい ・ いいえ)

B. 1 回あたり上限数がありますか? (はい (_____) 人 ・ いいえ)

C. 検査前に説明や相談(プレカウンセリング)を行っていますか? (はい ・ いいえ)

D. 迅速検査で陽性となった場合の確認検査の結果返しは? (1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

E. 確認検査の実施施設は？

(自施設 ・ 他施設(機関名:))

F. 確認検査用の検体は？

(迅速検査の残血液 ・ 確認検査用に採血 → (迅速検査用と同時 ・ 結果通知後))

③ 確認検査の方法を教えてください(通常検査を行っている場合、即日検査を行っている場合共通)。

(WB法のみ ・ 2次スクリーニング検査+WB法 ・ WB法+核酸増幅検査(NAT)法
2次スクリーニング検査+WB法+NAT法 ・ その他())

④ 受検者について把握している内容に○を付けて下さい(複数回答可)。

(性別 ・ 年齢 ・ 年代 ・ 居住地域 ・ 受検の動機 ・ 受検経験 ・ 感染リスク
・ 性的指向 ・ 感染機会の時期 ・ 今回の検査の情報源 ・ その他())

→ 集計結果を事業の改善見直しや予算要求等に活用していますか？ (している ・ していない)

⑤ 結果説明・相談等について教えてください。H28年4月に体制等が変わった場合は変更後をご記入下さい。

A. 結果説明時の1事業実施回当たりの担当者は？

* 該当箇所の□にシ点を付け、合計人数を記入、担当職種に○を付け、職種別の人数をご記入下さい。

□「陰性結果通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「迅速検査陽性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「確認検査陰性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「確認検査陽性通知」→ (人 : 医師(人)・保健師(人)・看護師(人)・その他(人))

□「迅速検査陽性」時の説明体制(例:、医師が結果を説明し、保健師が相談先などを説明)

具体的には？ ()、手渡し資料は？(ある・ない)

□「確認検査陽性」時の説明体制(例:医師が結果と医学的説明、保健師が他の説明、カウンセラーが相談)

(具体的に:)

B 検査結果の説明について (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他)

C. 陽性者への説明事項に関するマニュアルがありますか？ (ある ・ ない)

D. 陽性者への説明資料はありますか？ (ある(具体的に:) ・ ない)

E. 陽性者に手渡す資料はありますか？ (ある(具体的に:) ・ ない)

F 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？

(経験あり ・ 実績はないが可能 ・ できない ・ 検討中 ・ その他)

G. 確認検査で陽性の場合には感染症発生動向調査の届出を行いますか？

(必ず行う ・ ほぼ行う ・ 行わない ・ 紹介先医療機関に依頼する)

→「行わない」or「紹介先医療機関に依頼する」の方(理由:)

H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をしていますか？ (している ・ していない)

「している施設」→ 対象は？ (全員 ・ 一部)、場面は？ (検査前 ・ 結果説明後 ・ 両方)

具体的手法は？ (具体的に:)

I. 対応困難者(不安神経症、リスク行動を繰り返す人等)の経験はありますか？ (ある ・ ない)

対応困難者の紹介先はありますか？ (ある ・ ない)

「ある」と答えた施設 →(紹介先全てに○: 医療機関(診療科)・NGO ・その他)

J. 血液暴露事故が受検動機の受検者(医療従事者)はいましたか？

(いない ・ いる :受検者数(H27: 名、H28: 名) :状況)

K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？

(通常通り行う ・ 受け付けない ・ 特別な配慮をする→(具体的に:))

L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？

(ない ・ ある :対応言語と方法を具体的に())

⑥ ホームページ「HIV検査・相談マップ」(hivkensa.com)をご覧になったことはありますか？(はい・いいえ)

⑦ 「HIV検査・相談マップ」はHIV検査相談事業に役立っていると思いますか？(はい・いいえ・不明)

⑧ H28年1月以降、HIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して誤った結果を通知したことはありましたか？

(あった → (HIVについて ・ 性感染症について) ・ なかった)

⑨ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありましたら、余白または別紙にご記入下さい。

自治体特設 HIV 検査施設における梅毒検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は研究班の報告書としてまとめるとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

検査施設名: _____

連絡担当者名: _____ 職種: 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先: TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 全施設にお伺いします。

- (1) 梅毒検査を実施していますか? → (実施している・実施の予定・実施していない)
 (2) (1)で梅毒検査を「実施していない」と回答された場合のみ、下記にお答えください。



どのような条件があれば、梅毒検査の実施が可能となるでしょうか? 当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 自治体本庁の方針であれば実施する | ② 職員の増員 |
| ③ 予算の増額 | ④ 受検者の定員削減 |
| ⑤ 医療機関の協力・連携 | ⑥ 梅毒検査相談のマニュアル配布 |
| ⑦ 梅毒検査の必要性を感じていない | |
| ⑧ その他 (_____) | |

2. 梅毒検査を実施している施設にお尋ねします。

- (1) 梅毒検査はどのように実施していますか?
 (HIV 検査と一緒に受けられる (無料・有料) ・梅毒検査のみで受けられる (無料・有料))
- (2) 梅毒検査の方法と1年間(平成28年1-12月)の検査数・陽性数を教えてください。
 (ア) 脂質(カルジオリピン)を抗原とする検査(STS法)
 (RPR カードテスト ・ 自動化法 ・ 実施していない)
 ・STS法検査数 (_____ 件) ・STS法陽性数 (_____ 件)
 (イ) *T. pallidum* を抗原とする検査 (TPHA法、TPPA法、IC法などのTP抗体検査)
 (通常検査で実施 ・ 即日検査で実施)
 ・TP抗体検査検査数 (_____ 件) ・TP抗体検査陽性数 (_____ 件)
- (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか?
 (結果説明のみ ・ 医療機関を紹介 ・ STS法を実施し後日結果を通知(即日検査の場合) ・ その他 _____)
- (4) 梅毒検査を行っている曜日と時間をご記入下さい。
 (定期・イベント) 検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
 (定期・イベント) 検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
 (定期・イベント) 検査: _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
- (5) 予約制ですか? (はい ・ いいえ)
 (6) 有料の場合の費用は? (_____ 円)
 (7) 結果返しは? (即日 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ _____ 日後以降)

3. 梅毒検査相談を実施する上で、問題点や課題等がありましたら、ご記入ください。(裏面でも可)

ご協力ありがとうございました。